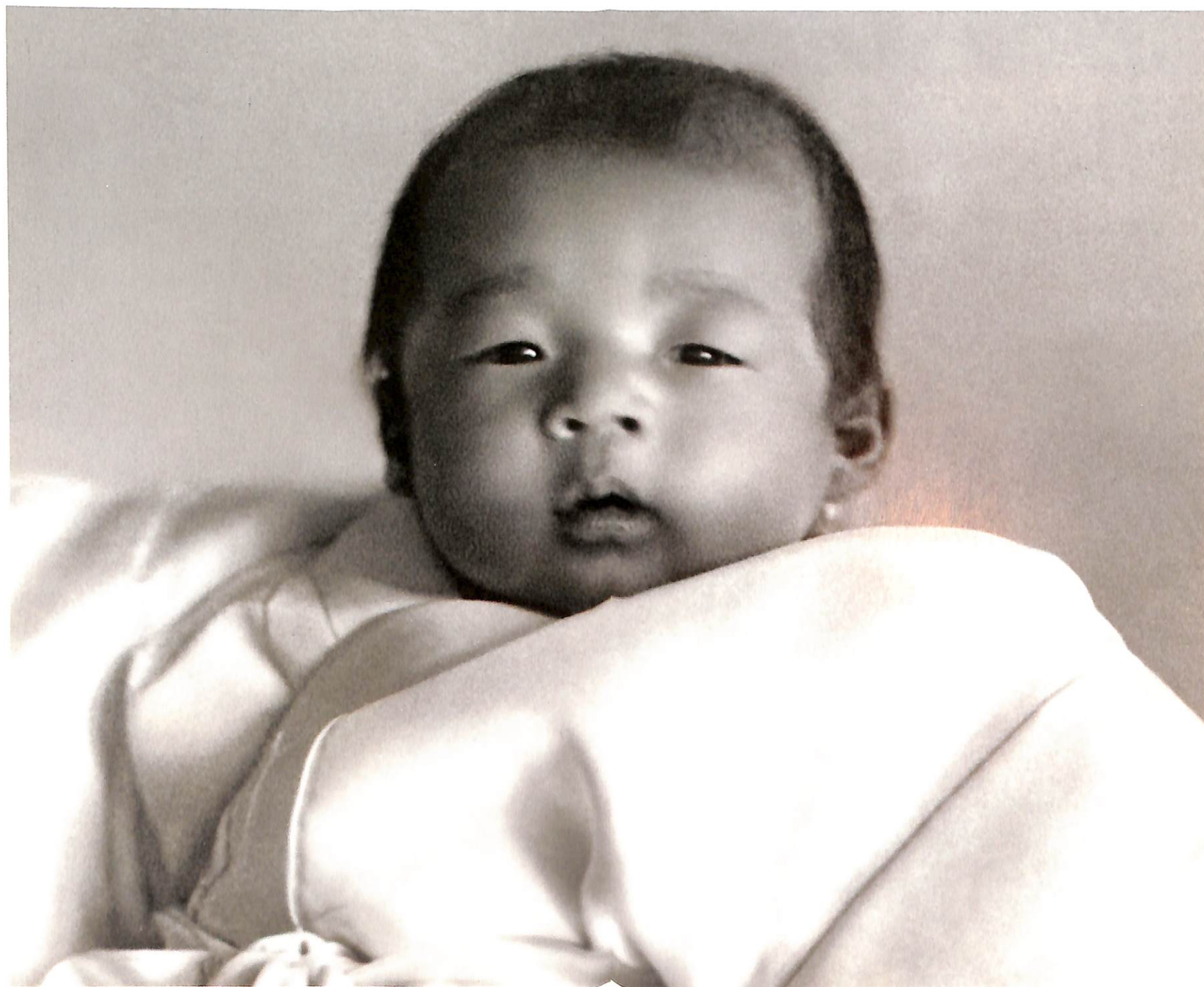
週刊 YEARBOOK

1933
昭和8年

# 日録20世紀

1|20
平成10年1月20日発行
(毎週1回発行)第2巻第2号
¥560
講談社

## 皇太子明仁親王ご誕生!

M8・1の巨大地震に続く「三陸大津波」の恐怖
凄惨! 特高警察、作家・小林多喜二を虐殺
日本、国際連盟脱退! "世界の孤児"へ

▲昭和9年12月23日、満1歳の誕生日を迎えた皇太子。この日、天皇・皇后は、宮中で側近の祝詞を受けられた。「歴史写真」

◀皇太子ご誕生祝賀のイルミネーション。手前の建物は東京日日新聞社（現・毎日新聞社）。

▲12月23日午前6時55分頃、宮内省書記官・町村金五が、記者団に皇太子ご誕生を発表。

◎表紙　昭和9年2月23日、満2ヵ月の皇太子。誕生時の身長は50.7センチ、体重は3260グラム。

毎日新聞社



# 「鳴った鳴ったサイレン……」天皇も「よかった」とうなずかれた
# 日本中が歓喜した皇太子ご誕生！

▲宮城前で日の丸を片手に万歳三唱を繰り返す人の波。坂下門には記帳所が設置された。

よく晴れた早暁、静けさを破るサイレンが、日本中に鳴り響いた。皇太子の誕生を告げるサイレンであった。昭和八年一二月二三日のことである。昭和天皇と良子皇后に、ご結婚以来一〇年目にしてようやくご長男、つまり現天皇・継宮明仁親王が生まれたのだ。国民は歓喜し、「皇太子さまお生まれなった」の歌がヒットするなど全国が慶祝ムードに包まれた。

## 「親王様のご誕生だ！」全国民が喜びに沸いた

日本全土で一斉に「ポー」というサイレンが鳴り響いた。一分間続けて鳴り、一〇秒の間隔をおいてもう一度、一分間鳴り続けたら、世継ぎの皇太子の誕生と決められ、国民に周知徹底されていた。そして、昭和八年一二月二三日午前七時前、間をおいたサイレンが再び鳴り響いた時、国民の間には歓呼のどよめきが起こった。

宮内省から良子皇后（三〇）の五度目のご懐妊が発表されたのは昭和八年初夏のこと。予定日は一二月二八日。ところがそれより五日早い一二月二三日早朝五時頃、宮内省から「皇后のご出産がいよいよ間近」の報が伝わり、侍従たちや新聞記者は一斉に宮中に駆けつけた。

侍従詰所では侍従が集まって誕生の知らせを待つ中、なんと昭和天皇（三二）までふらりと現れ、心なしか落ち着かない様子を見せられた。そして午前六時三十九分、「親王ご誕生」のメモが鈴木貫太郎侍従長（六五）に渡された。侍従長はうぶ湯をつかう親王の様子を

「鳴った鳴ったサイレン……」
天皇も「よかった」とうなずかれた

# 日本中が歓喜した皇太子ご誕生!

直接確認したうえで、報告のため天皇のもとに向かった。天皇は報告を聞かれると身を乗り出して「たしかに親王か?」と聞き返し、それを受けた鈴木は、思わず「はっ、確かに男子のみしるしを拝見いたしましたッ」と答えた。天皇は晴れやかな顔でうなずくとまもなく、新皇子室で皇太子と初の対面をされ、その後、御産殿に皇后を見舞われた。皇后は天皇を見上げ「皇太子でございました」と言い、天皇は「よかった」と笑顔でうなずかれた。

全国にサイレンが鳴らされたのはこの頃である。たちまち世は、いたるところ慶祝ムード一色となった。奉祝花火が次々に打ち上げられ、全国のラジオ局は一斉に慶報放送に切り換わり、各家庭とも玄関に国旗を掲げた。都内では提灯行列の人の波が生まれ、クリスマスを祝うサンタクロースやカフェーの女給の胸にも「奉祝」マークがつけられた。翌二四日の株式は「奉祝」人気で、新東短期株が前日の一八一円一〇銭より一挙に二円二〇銭高で寄りつくなど、久々の全面高となった。命名式が行われた「お七夜」には、七万人の音楽隊パレードでにぎわった。参加者が多すぎ、上野公園から二重橋までの予定を、急遽、芝公園、靖国神社など五ヵ所からに変更されたほどだ。

丸の内署に留置されていた一八人がサイレンを聞き、看守に宮城遥拝を願い出て許された、とも記録されている。

奉祝歌も続々作られた。中でも「皇太子さまお生まれなった」(北原白秋作詞、中山晋平作曲)の「日の出や日の出に/鳴った鳴ったサイレン/天皇陛下およろこび/みんなみんなかしわ手……」という歌詞で明るく軽快なメロディーは、一躍、当時のヒットソングとなった。

親王は、生後七日目に「継宮明仁」と命名された。天皇・皇后のご結婚以来一〇年目にしてようやく誕生した、まさに国民待望の親王であった。

◀一二月二八日から三日間、奉祝花電車一五両、乗用花電車四八両、計六三両が東京市内を走った。

## 皇太子ご誕生までには宮内省の深刻な苦悩も

「この時の慶祝ムードは大変なものでした。どこに行ってもご誕生の話題でもちきりで、よく『皇太子さまお生まれなった』を歌ったものです。待ちわびた初の皇太子ですから、国民の喜びもひとしおだったんですね」と当時を振り返るのは皇室ジャーナリストの河原敏明氏。

木戸幸一内大臣秘書官長(四四)は当日の日記にこう記した。「やがてサイレンの二声を聴く。遂に国民の熱心なる希望は満たされたり、大問題は解決せられたり。感無量、涙を禁ずる能わず……」。

皇太子誕生は国民の大きな関心であり、かつ重大な心配事でもあった。

というのも、それまで皇后は四人の子をもうけられたが、いずれも女児(内親王)ばかりで「男児のご誕生を」と望む宮内省や国民を落胆させていた。国民の間では「もう皇后様はあてにできない。陛下も側室を持たれたらどうか」などという話題までささやかれていた。実際、明治天皇には一二人の側室がいたのをはじめ、歴代天皇は、正室以外に側室を持つのが常識となっていた。だが、大正天皇の時から一夫一婦制となり、昭和天皇も側室をおかれなかった。宮内省や、元老・西園寺公望などは、天皇に側室の斡旋を試みている。華族の娘三人の写真を天皇に見せたところ、天皇は「皆さん、なかなかよさそうな娘だから、相応のところに決まるといいね」と、あっさり写真を返されたという。

「天皇は皇后を大事に思っていましたし、側室を持つなど〝人倫にもとる〟と言っておられた」(河原氏)

それだけに、明仁親王の誕生は天皇・皇后にとって格別の喜びであった。皇室では、古くから、皇子たちは、他家で育てられるしきたりだったが、天皇は皇太子を手元で育てたいと希望され、実際、皇居内の皇子御殿で生活を始められた。

しかし昭和一一年二月二六日、陸軍部隊の重臣襲撃(「二・二六事件」)がこの天皇の願いを崩してしまった。西園寺が、天皇に直々に「皇太子様を、おそばから離したほうがよろしいのでは」と進言、やむなく天皇も承知したという。万一、また同様の事件が起きた場合、天皇と皇太子が一緒にいるのは危険だという理由からである。そして皇太子は三歳三ヵ月でご両親のもとを離れることになった。

皇太子はご幼少の頃から、激動する昭和史に翻弄されていたのである。

▲12月29日、お七夜の夜、東京市内で行われた奉祝提灯行列の一行。中学生や青年団員が多数参加して市内を練り歩き、宮城前で解散した。

### 新聞に見る「皇太子ご誕生」の慶祝行事

「皇太子ご誕生」を慶賀する行事は、現在では考えられないほど幅広く多彩なものだった。東京市主催のイベントだけでも20におよび、各区議会は臨時議会で奉祝決議を行った。

とりわけ、忙しくなったのが提灯や旗の業者。提灯の発注は誕生日以来、東京市内からの発注だけで400万～500万個にのぼったといい、価格も、通常の5銭から倍の10銭に跳ね上がった。また、日の丸の注文は500万本近くにのぼった。中にはデパートから縦6メートル、横8メートルという大きな日の丸の注文を受けた業者もあった。

当時人気絶頂だった松竹少女歌劇団は、さっそくプログラムを変更し、用意の奉祝レビュー「吾が日の皇子」を上演し、明治座、東劇では出演中の俳優全員が紋付き羽織はかまで舞台に整列、客席とともに万歳を三唱した。東京市電の浜松町車庫では、63台の電車を花電車に衣替えするため、「全員徹夜でがんばれ」という檄文が張り出された。

世相を感じさせるのは、「東京朝日新聞」の社告で、誕生記念事業として、同社主催、陸軍省共催で徴兵検査成績の優良な市町村の表彰制度を発足させるというものだった。

▲12月29日、「浴湯(よくとう)の儀」の奉仕者たち。

# M8.1の巨大地震に続いて大津波が発生 死者・行方不明者3064人 三陸を高さ28.7メートルの波が襲った！

昭和八年三月三日午前二時三一分、宮城県金華山沖約二五〇キロの海底で、マグニチュード八・一の巨大地震が発生。そして三〇分後、明治二九年の大津波で死者約二万二〇〇〇人という甚大な被害をこうむった三陸地方の町や村は、三七年を経て、再び大津波に襲われたのだ。

釜石市立郷土資料室提供

▲家屋の破片で埋めつくされた釜石桟橋付近の海面。中央奥や右手には、打ち上げられた船が見える。同様の光景があちこちで見られた。

## 厳寒の三陸海岸一帯に闇をついて大津波来襲

大惨事の前ぶれは、桃の節句を迎えた三月三日午前二時半頃に突如やって来た。屋外は小雪が降る氷点下一〇度。風の吹く音に似た地鳴りがすると、大地がガタガタと上下に揺れだした。

棚からはものが落ち、天井も崩れんばかりの激震だったが、その揺れは三分ほどでおさまった。明治二九年の大津波を体験した老人たちの脳裡には「こんな時に津波が来るかもしれない」という不安が高まっていた。

「もうすぐ小学校の四年生になる時のことでした。地震で飛び起きた私は、揺れがおさまったので、土間にあった小便桶で小用をたしていたところ、突然家の下の方から『津波だ、逃げろ』と声がし、一家一〇人がわれ先にと外に飛び出したのです。運動会ではいつもビリだったのにこの時の逃げ足は相当なもので、はだしのまま必死に段々畑を駆け抜け、地域で一番高い海抜五二メートルの御月山に達するのに三分はかからなかったと思います。私の後からも形相が変わった人たちが続々と登ってきました」

こう語るのは、岩手県綾里村（現・三陸町）の漁家に生まれ、地震の恐怖を体験し、今も津波の調査・研究を続ける山下文男氏（現・七三歳）である。

津波は地震の約三〇分後、午前三時から三時四〇分頃まで、数回にわたって青森県・岩手県・宮城県の海岸を襲った。地震と津波による被害は、死者・行方不明者三〇六四人、家屋の流失四〇三四戸、倒壊一八一七戸、船舶流出七三〇三隻。特に岩手県で被害が大きかった。

中でも大小六〜七回も津波に襲われた岩手県田老村の惨状はすさまじかった。人口二七七三人中九〇一人が死亡・行方不明、家屋五五九戸のうち五〇〇戸までが流失、まさに村は壊滅状態だった。

田老町役場発行の『津波と防災――語り継ぐ体験』は、その惨状を「バリバリ、波のあおりに家の屋根が沖天に舞い飛ぶ。続いて家々が、順に将棋の駒でも倒すかのごとく倒れる。かくして海魔はわずか十数分のうちに、父母を子どもを財産を永久に呑んでしまった」と記している。

波の高さは田老村一〇・一メートル、綾里村

▲地震発生の直後、釜石町では3カ所から火の手が上がった。

▲釜石町場所前（現・釜石市浜町1丁目）の被害状況。石積みの倉をのぞいて壊滅した。現・釜石市域では、地震による全・半壊650戸、津波による流失490戸のほか、火災により214戸を焼失し、403人の死者・行方不明者を出した。 釜石市立郷土資料室提供

▲青森県百石町は、波高４メートルの津波に襲われた。写真は、家が流され、屋根だけが原形をとどめた住宅。 東奥日報社

白浜で二八・七メートルで、その波浪は遠くハワイやカリフォルニア、チリにまでおよんだのである。

## 民家を高所へ移転させ防潮堤、防潮林を設置

一夜明けた三陸地方は夜中の雪とはうって変わり、朝の太陽がまぶしいほどだったが、町や村は荒野と化し、屍が累々ところがるさまはまさに地獄絵そのものだった。しかも、昭和六年から始まった「満州事変」のため、岩手県下では被害戸数のうち、三八六戸で働きざかりの青年が出征していたのである。

空からの光景は異様なものだった。三日午後一時五〇分、東京・立川の飛行場を飛び立った「東京朝日新聞」の飛行機は、太平洋を海岸線にそって北上、牡鹿半島の上空、石巻、気仙沼を経て、一二〇メートルほどの低空飛行で岩手県に入り釜石上空に向かいながら撮影フィルムをまわし続けた。

そして翌四日の新聞はその惨状を「津波にさらわれた跡は歴然として余りにも悲惨で目もあてられない。家ははぎとられて岸に揚げられ、漁船は陸に腹を見せて打ちのめされ、あっちこっちに散乱している。付近の村には倒れた家が散乱して、その周囲には救援や復興に努力しているらしい人々の動きが見うけられた」と報じている。

救援の手はまず、難を逃れた近隣の村からさしのべられた。炊き出しが行われ衣類などが送られ、死体収容や倒壊家屋の跡かたづけなど必死の復興作業が始まった。

三陸一帯は五日朝から吹雪となり、海は大時化となった。そして七日夜からは気温が急激に下がり始め、八日朝には田老村で氷点下一九・一度というこの冬一番の寒波に見舞われたのである。被災地では、感冒、肺炎、腸カタルを発病する人々が続出した。

こうした状況下、救援復旧作業は困難をきわめたが、青森県の大湊港などからは駆逐艦数隻が急遽出動し、防寒具や食糧などを運びこんだ。陸軍からも弘前の師団や盛岡の騎兵連隊などから、毛布、外套、シャツ、乾パンなどの救援物資が軍用トラックで急送され、復興のための工兵隊も出動した。

近県や、東京など大都市からの救援の手も早く、上野駅には救援物資が山積みされ、三陸出身者や「赤十字」などが派遣する医療チーム、自主的に組織された民間の救援隊などでごった返した。

復興防災計画も着々と実行に移された。その中心は民家の高所への移転であった。先祖代々の土地を離れることに反対する住民もあったが、当時、地震研究の第一人者だった今村明恒博士の助言を受け入れ、岩手県だけでも約三〇〇〇戸が移転するとともに、護岸、防潮堤、防潮林などが次々に新設され、その後の津波に備えられた。

先の山下文夫氏は、この防災計画について「昭和二七年の十勝沖地震、三五年にはチリ地震による津波が相次いで襲ってきましたが、これらの施設はその被害を最小限に食い止めました。今後想像を絶する津波が来ればわかりませんがね」と語っている。



**女たちの肖像**

# 松竹レビューガール・ストを闘い抜いた〝男装の麗人〟水の江滝子の指導者ぶり

稲葉真弓

この年の六月、東京・浅草の松竹座で待遇改善を求めた従業員らがストライキに入り、新聞は連日その様子を書きたてたが、争議が世間の耳目を集めたのは、少女歌劇部の総指揮をとったのが当時人気絶頂の〝男装の麗人＝ターキー〟こと水の江滝子（一八）だったこと、メンバーの多くがまだ一〇代の少女たちだったことがあげられる。

このストは、松竹座音楽部員から発したものだが、少女歌劇部が合流したことから話題を呼び、「桃色争議」なる異名まで取ることになった。水の江は、責任感の強さをかわれてリーダーに推され〝花の委員長〟と騒がれたが、本人によれば「何が何だかわからん」状態だったという。湯河原の別荘地にたてこもった総勢二百数十名のレビューガールたちは、サイン入りブロマイドを配って資金を調達、水の江は支援の俳優ら四六人が検挙される騒ぎの中で会社側との団交にこぎつけるなど大活躍し、一ヵ月後の七月一五日、会社側の城戸四郎専務と水の江滝子委員長との間に最低賃金・公休日の制定などを決めた覚書が交わされ、争議は解決した。これを機に松竹少女歌劇部は松竹少女歌劇団として新発足、水の江ら一六人は二ヵ月間の謹慎処分を受けたが、一〇月には「タンゴ・ローザ」で復帰。一六〇回上演記録の大ヒット作となった。

▶演説をする争議団のリーダー、水の江滝子。

そもそも彼女は日本レビュー史上初の、「男役」を演じた人である。大正四年、北海道・小樽生まれの彼女は二歳で家族とともに上京。一三歳の時、松竹楽劇部の第一期生募集に合格、同年初舞台を踏んだ。〝男装の麗人＝ターキー〟の誕生は昭和五年、三分ほどの幕間に断髪・男装姿でソロを踊ったのがきっかけだった。以後彼女は男装姿で一世を風靡、昭和一四年に退団するまで、松竹少女歌劇団の黄金期を築いた。

退団後は「劇団たんぽぽ」を結成、映画界にも進出したが、昭和二八年舞台生活引退を表明。この直後、かつての恋人だった男性が自殺、精神的打撃から立ち直るために二九年日活に入社、日本初の女性プロデューサーとして浅丘ルリ子、石原裕次郎を育て「狂った果実」「太陽の季節」を大ヒットさせたほか、NHKテレビ「ジェスチャー」の女性軍キャプテンをつとめ人気を呼んだ。最近は宝石デザインも手がけているが、平成五年二月都内で盛大な「生前葬」を営み、久々に話題の人となった。

**勝者・敗者**

# 甲子園史上に残る熱闘 中京商業対明石中学 延長二五回の投手戦！

阿部珠樹

この年八月一九日、甲子園の全国中等学校野球大会は、空前の観客であふれ返った。準決勝、松山中学対平安中学、中京商業対明石中学という前評判の高い名門校同士のぶつかり合いに、期待が高まったのである。

第一試合で、平安が松山を下した後、中京対明石の試合が始まった。時刻は午後一時一〇分。

二年連続、夏の大会を制している中京商業は吉田正男（一八）が先発。吉田は二回戦の浪華商戦で返球を目の上にあて、三針縫う怪我をしていた。いわば〝手負い〟の身である。対する明石中は、剛球で鳴る楠本保（一八）と頭脳的投球の中田武雄（一七）の二人の投手を擁していたが、この日は左腕の中田を先発に立てた。

試合は両投手の投げ合いで淡々と進んでいった。双方チャンスらしいチャンスもないまま、0対0で九回裏、中京の攻撃。無死満塁とサヨナラの絶好機を迎えたが、中田は冷静に投手ライナーをさばき、併殺でこのピンチを切り抜ける。延長戦。

延長に入ると、双方、走者は出すものの、なかなか得点にはいたらない。一五回、今度は中京が二死満塁のピンチを迎えた。打者は大会有数の強打者と言われた楠本。しかし、吉田は前日の負傷の傷みをものともせず、真っ向から力の勝負を挑み、楠本を三振に仕とめ、ピンチを切り抜けた。中京応援団の大歓声と明石ファンの大きな溜息が交錯した。一六回が終わると、スコアボードがなくなり、にわか作りのボードが継ぎたされた。そこに加わる「0」。従来の記録、延長一九回を迎えても決着はつかず、ついに試合は空前の延長二〇回に入った。

そして試合開始からまもなく五時間に達しようという二五回裏、さすがの膠着状態にも、ついに終止符が打たれる時が来た。満塁のチャンスを迎えた中京が、続く打者の二塁ゴロで相手の送球が高くそれる間に三塁走者が決勝のホームを踏んだのだ。歓喜して飛び跳ねる中京ナイン。そのかたわらで肩を落とす明石の投手・中田を、僚友・楠本が慰める姿は、満員の観客の胸に長く刻まれることになった。

朝日新聞社

▲継ぎたされた急造のスコアボード。なお中京商業は、翌日の決勝戦で、吉田が平安中学を2安打1失点におさえ優勝。

# ニュース・ファイル 1933

## フォト＋日録で再現する365日

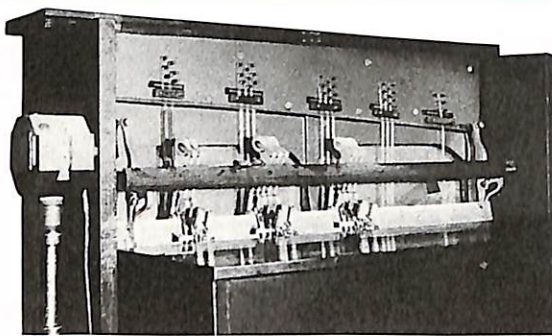
関東軍が熱河省を制圧、「満州事変」に一応の決着がつけられた。代償は国際連盟脱退。ヨーヨーが大流行し、たちまちすたれていった。都市には失業者があふれ、農村の窮乏は深刻だった。そんな中、三原山では前年の二四倍、九四四人の自殺・自殺未遂者が出た。

◀暗躍する「東洋のマタ・ハリ」川島芳子(2月23日)「満州国」皇帝の妃となる秋鴻の天津脱出を昭和6年に助け、一躍脚光をあびたが、この頃は関東軍の「熱河作戦」を助ける反満抗日勢力討伐の民軍を指揮していた。

朝日新聞社

1月

朝日新聞社

◀ラジオ時報、自動化(1月1日)日本放送協会のラジオ時報が、アナウンサーが木槌をたたく手動式から写真のようなピアノ音を組み合わせた自動式装置に変更された。これにより誤差はわずか0.2秒となった。

朝日新聞社

◀永田秀次郎、東京市長を辞職(1月19日)昭和5年の市長再選などにからむ第3助役、保健局長らの買収事件の責任をとったもの。写真は職員に別れを告げる永田(右端)。

朝日新聞社

◀ヨーヨーブーム(1月)欧米での爆発的ヒットを受けて、前年暮れから大流行。写真は25日、大阪の淀川公園で。「非常時」にもかかわらず、2月には東京で競技会が行われるほどだった。

▼堺利彦、厳重監視の告別式(1月27日)荒畑寒村ら社会主義者や労働団体幹部が多数参列したため、警官が取り囲む異様な光景となった。堺は日本の社会主義運動の草分け。62歳だった。

ROGER-VIOLLET／ユニフォト・プレス

▲ヒトラー、独首相に就任(1月30日)前首相パーペンと連立内閣樹立について合意、ナチス時代の幕開けとなった。写真はヒンデンブルク大統領(右)と握手するヒトラー。

▲ニューヨークで排日デモ(1月22日)関東軍の「熱河作戦」に抗議、中国人留学生約100人が日貨排斥などを訴えた。この頃、中国の抗日運動に呼応、世界各地で日本の侵略への抗議行動が頻発した。

### 昭和8年 1月

1(日)●山海関で日中両軍衝突(関東軍南下の端緒)。

2(月)●東京・淀橋署、共産党系労組員ら九人逮捕。

3(火)●国民政府、山海関事件に抗議し、日本の砂糖・綿布などを輸入禁止に。

4(水)●田中絹代、松竹で女優初の大幹部待遇となる。

5(木)●石川島造船所作業員二五〇〇人、この日の賃金を「愛国労働号」建造資金として軍に献納。

6(金)●免状発行権で紛糾の観世宗家、梅若万三郎が発行しないと誓約して復帰することで決着。

7(土)●前年度貿易額は六七二七万円の入超と大蔵省。

8(日)●愛郷塾塾頭釈放の天皇直訴をくわだてた元塾生逮捕。

9(月)●大島・三原山で実践女子専門学校生徒が友人立ち会いで自殺(以後続出。自殺の「名所」に)。

10(火)●東京商大教授・大塚金之助、治安維持法違反で逮捕。

11(水)●東京とボンベイ、ベイルート間の電信開設。

12(木)●共産党員で元京大教授の河上肇、東京で逮捕。

13(金)●警視庁、市電の速度を平均時速一六キロから二〇キロにあげることを許可。

14(土)●埼玉県秩父町に「左右幻日」、三つの太陽が出現。激しい気温変化による奇現象。

15(日)●米、「満州国」を不承認と列国に通告。

16(月)●西日本の大雪で電話線切断、通信網が麻痺。

17(火)●大阪中央放送局、実況録音再放送技術を開発。

18(水)●片岡千恵蔵、日活との絶縁・完全独立を声明。

19(木)●飛行第七連隊の爆撃機五機、平壌—三方ケ原間一三六〇キロの日本海横断飛行に成功。

20(金)●石鹸の新聞広告への顔写真無断使用で樺太の官吏夫人が損害賠償などを提訴。

21(土)●軍馬大量買い上げで馬の価格高騰、と新聞に。

22(日)●陸軍省、国際連盟脱退も辞さないと見解表明。

23(月)●芦田均、衆院で対満外交の無能を激しく非難。

24(火)●前年、日光・華厳の滝で一一一人が自殺、未遂で保護されたもの三一七人で新記録と新聞に。

25(水)●北陸の大雪で列車大混乱。一二時間の遅れも。

26(木)●銀座に「満州酒場」。中国風の服装・装飾と五〇銭の切符制チップが特徴、と新聞に。

27(金)●内務省、予防重視の結核対策要綱を発表。

28(土)●松竹系大部屋俳優らに労組結成気運と新聞に。

29(日)●日本労農弁護士団結成。特高(特別高等警察)の労働運動弾圧に対抗。

30(月)●ナチス、政権獲得。ヒトラーが独首相に就任。

31(火)●加藤政之助、貴族院で軍事費膨張を攻撃。

アメリカ国立公文書館／毎日新聞社

▲**英の劇作家バーナード・ショー来日(2月27日)** 世界周遊の豪華船で到着。3月7日には東京で荒木陸相と歓談し、「あなたなら立派な共産党員になれる」とその精神主義を皮肉った。

▶**米週刊誌「ニューズ・ウィーク」創刊(2月17日)** 「事情に通じた大衆こそ最良の安全保障」をスローガンとした。発行部数5万部、4年後25万部に。

◀**米禁酒法廃止へ(2月5日)** 施行以来、暗黒街の温床と不評をかっていたが、13年ぶりに撤廃が決まった。さっそく、翌月の大統領就任祝いに最高級のワインを贈られたルーズベルト。

▶**浜口首相狙撃犯に死刑(2月28日)** 昭和5年11月にロンドン軍縮条約に反対して襲撃、殺人未遂罪に問われていた佐郷屋留雄(中央)に、東京控訴院は一審どおり死刑を宣告した。昭和15年、恩赦で出所。

◀**長谷川伸「瞼の母」に会う(2月12日)** 生き別れとなった母子の情感を描いた自作の戯曲「瞼の母」そのまま。父親が別の女性を家に入れたため、4歳の時別れたままになっていた生母に、47年ぶりに対面した。

▶**上野の「両大師橋」渡り初め(2月19日)** 東京帝室博物館(現・東京国立博物館)から両大師(輪王寺)前を通り上野駅の線路をまたぐ大陸橋。自動車交通増加を見こして設計。

共同通信社

## 昭和8年2月

1(水)●ドロテア・ウィーク主演「制服の処女」封切。

2(木)●荒木陸相、衆院で熱河省攻略の決意を表明。

3(金)●ブラジル移住地で花嫁二〇〇人募集と新聞に。

4(土)●長野県で、共産党関係教員の一斉検挙始まる(長野県教員赤化事件。六百人余逮捕)。

5(日)●武蔵野鉄道争議が女性不採用を条件に解決したため、各女性団体が抗議。

6(月)●東京で鉄材二トンを盗んだ「怪力男」逮捕。

7(火)●東京地裁、不敬罪と治安維持法違反の宇都宮徳馬に、転向したとして執行猶予つき判決。
●松阪市が失業救済のため港湾浚渫工事を二部交替、四時間労働で従来どおりの日給と決定。

8(水)●シンガーミシン争議、一三四日ぶりに解決。

9(木)●パリ音楽院首席卒業の原智恵子、帰国後初のピアノ独奏会を、東京・日比谷公会堂で開催。

10(金)●ホフマン上智大学長、靖国神社参拝拒否で配属将校が引き上げた問題で、再配属を懇請。

11(土)●建国祭を記念し、宮城前へ一〇万人大行進。

12(日)●警視庁、一斉「不良狩り」で一〇〇〇人検挙。

13(月)●広島県高等女学校長会、女学生統一服を決定。

14(火)●国際連盟、満州(中国東北部)からの日本軍撤退など対日勧告案を可決。

15(水)●チェコなど東欧三ヵ国、ドイツに対抗するため協商を強化。

16(木)●将校不足の陸軍、予・後備役から募集へ。

17(金)●張学良ら、日本軍熱河侵攻に備え抗日軍編制。

18(土)●日本婦選大会、ファッショ反対などを決議。

19(日)●東京・上野に陸橋「両大師橋」が完成。

20(月)●小林多喜二、東京・築地署内で虐殺される。

21(火)●秋田市が女給の全身検診実施決定。廃業続出。

22(水)●三越、仙台に支店を開設。

23(木)●関東軍、熱河省に侵攻(3月10日頃制圧)。
●万国婦人子供博の「女子看守」(コンパニオン)採用試験。四〇〇人募集に五〇〇〇人応募。

24(金)●国際連盟、「満州国」不承認など対日勧告案を四二対一で採択。日本代表は、議場を退場。
●阿蘇山が一五〇年ぶりに大噴火を始める。
●山陰本線、京都—幡生間が全線開通。

25(土)●国際連盟脱退の見通し確定で株価反騰。

26(日)●吹雪で運転不能となった青森県津軽鉄道で、線路ぞいに帰ろうとした客が続々と遭難。

27(月)●佐世保で、船体に鋲を使わず、すべて溶接で建造した初の全溶接駆逐艦「初春」が進水。

28(火)●独の劇作家・ブレヒトがデンマークに亡命。



カール・ハーゲンベック動物園提供

▲**ハーゲンベック・サーカス団来日(3月22日)** ドイツからライオン、虎、象など182頭を連れてきた。東京・芝浦の会場で28日から興行。スピーディーな演技が受けて、連日満員となった。

▼**全米で銀行閉鎖(3月5日)** 最悪の経済状態となった米国では、銀行臨時休業措置令により13日まで銀行が営業停止。写真は6日、デトロイト市の百貨店で、卵で外套を購入する農夫。

CORBIS-BETTMANN／PPS

▲**ユダヤ製品ボイコット(3月28日)** ナチス党指導部が指令、米英などによる「ドイツ製品不買運動」への報復措置に出たもの。「ユダヤ人から買うな」のポスターを店頭に貼り、突撃隊員が店頭で見張った。

朝日新聞社

▲**浅草観音落慶(3月16日)** 関東大震災で奇跡的に焼失をまぬがれた東京・浅草の金竜山浅草寺本堂の建て替えが終了。仮堂に祭られていた本尊などを移転し、おごそかに正遷座式が行われた。翌日には落慶法要も行われた。

▼**極寒の猛進撃(3月5日)** 前月23日熱河省に侵攻した関東軍は、3月に入って承徳など主要地を占領したが、破竹の進撃の一方で多数の兵士が凍傷となり手足切断にいたる兵も出た。写真は平泉の雪原で待機する第17連隊。

毎日新聞社

アメリカ国立公文書館／毎日新聞社

▶**南カリフォルニアで大地震(3月10日)** 1906年(明治39)に死者1000人を出したサンフランシスコ大地震以来の被害。ロングビーチなどを中心に無数の家屋が倒壊、200人を超える死者を出した。

## 昭和8年3月

1(水)●大宅壮一主宰「人物評論」創刊。
●日本沃度、日本初の工業的アルミ生産工場「昭和アルミニウム工業所」を長野県に設立。

2(木)●インドの人絹関税引き上げで人絹価格暴落。

3(金)●金華山沖で地震。三陸地方に大津波が襲来。

4(土)●民主党のルーズベルト、米大統領に就任。

5(日)●独総選挙(ナチス大勝。9日、共産党非合法化)。

6(月)●米国の金融恐慌で、日本の銀行も為替業務を全休。株式市場も立ち会いを休む。
●愛国婦人会、婦人報国祭を挙行。一万人行進。

7(火)●「東京朝日」、ムーラン・ルージュの初劇評掲載。

8(水)●宋慶齢ら、上海で国民禦侮自救会を結成。

9(木)●米議会開会(ニューディール諸法案成立)。

10(金)●東京で養育費めあての嬰児二五人殺害犯逮捕。

11(土)●郵船「筥崎丸」と移民船「マニラ丸」が門司港で衝突。

12(日)●蔣介石、徹底抗日を主張する張学良を更迭。

13(月)●横浜市、日本で初めて救急車を配備。

14(火)●農村負債額四五億四六〇〇万円と農林省推定。

15(水)●総武本線両国—市川間が電化開通。

16(木)●ソ連の北洋漁業邦人労働者雇用禁止通知に、函館漁業互助会が大使館などへの陳情決定。

17(金)●東京・浅草寺で本堂大修理落慶法要挙行。

18(土)●尾崎士郎「人生劇場 青春篇」、「都新聞」に連載。

19(日)●前年の人絹生産高は世界第三位、と新聞に。
●東京婦人市政浄化連盟、疑獄関係者らの「落選を祝う会」を開催。

20(月)●東京市、内務省の「市長官選」方針に反対し意見書「市民よ東京市を失ってもよいか」を発表。

21(火)●東鉄が「雇傭人」採用試験。競争率二四倍。

22(水)●独ハーゲンベック・サーカス団、来日。

23(木)●独国会、授権法可決。共和制を廃止し、全権限をヒトラーに委任、独裁が確立。

24(金)●一年間の米国講演活動を終え新渡戸稲造帰国。

25(土)●東京交通労組、労資協調へ転向の新協約承認。

26(日)●大阪の「円タク」が東京までタダ乗りされ、被害額は新記録の五〇円、と新聞に。

27(月)●内田外相、国際連盟事務総長に連盟脱退通告。

28(火)●法医学会で血液型と気質の関係めぐり大論戦。

29(水)●米穀統制法公布。政府買い上げで米価安定へ。

30(木)●新潟県春日村で、結婚には健康診断書取り交わし式服は綿服でなど申し合わせ、と新聞に。

31(金)●江戸時代以来、時刻を告げてきた岡山市栄町の「時報の鐘」が財政難から廃止される。

# 4~5月

朝日新聞社

▶**南米めざして出発(4月12日)**日本高等拓殖学校卒業生とその家族計87人に15人の花嫁が加わり、「海外雄飛」をめざして横浜を出発。写真は出発前に海軍省を訪問、海相・大角岑生の激励を受ける一行。この後、外務・拓務両省も訪れた。

ユニフォト・プレス

▲**初のエベレスト上空飛行に成功(4月3日)**イギリスの飛行家クライスデール侯爵とマッキンタイア中尉が、2機のウエストランド型複葉機で世界一の高峰の上空、高度1万1000メートルを飛んだ。

共同通信社

▲**シカゴ万博日本館の上棟式(4月22日)**博覧会は「進歩の100年」をテーマに、5月27日から11月12日まで開催。18ヵ国が参加し、日本館は生糸の展示館として人気を集めた。

毎日新聞社

▶**開通間近、大阪初の地下鉄(4月19日)**5月20日の梅田―心斎橋間3キロの開業をめざした。写真は、新町橋を2台のトラクターと牛に引かせて、南御堂筋前の開口部へ移動中の車両。

朝日新聞社

◀**重光葵、復帰(4月6日)**前年の上海天長節祝賀式爆破事件で右足を切断、入院中だった。写真は東京駅に到着した重光。5月から外務次官として、対中国政策樹立の中心となった。

## 昭和8年4月

1(土)●古川緑波ら、「笑の王国」を浅草で旗揚げ。
●初の色刷り国語教科書「サクラ読本」使用開始。
●「文学」(岩波書店)創刊。
●児童虐待防止法公布。曲芸などでの使用禁止。
2(日)●東京で天然痘発生。五〇〇〇人に強制種痘。
3(月)●大阪の帝国女子薬学専門学校、女子専門学校で初めて陸軍将校配属を申請。
4(火)●政府、連盟脱退後も南洋統治方針不変と告諭。
5(水)●日本農民組合の平野力三らが「皇道会」結成。農民と在郷軍人の提携をめざす。
6(木)●日本製鉄株式会社法公布(9年1月、官営八幡製鉄所と製鉄五社が合同して設立)。
●伯爵・土方与志、モスクワへ出発(ソ連作家同盟大会で多喜二虐殺訴え、9年に爵位剝奪)。
7(金)●小林多喜二『蟹工船・工場細胞』が発禁に。
8(土)●独、条例発布し官界からユダヤ人を完全放逐。
9(日)●東京の会社員、私財で欠食児童らに食事提供。
10(月)●関東軍、万里の長城を越え華北へ侵攻。
●英、日印通商条約の廃棄を通告。
11(火)●足袋販売業者が文を廃しメートル法を採用。
12(水)●シカゴ博で生糸宣伝のため製造実演する「生糸マネキン」を中央蚕糸会が派遣、と新聞に。
13(木)●靖国神社で石の大鳥居と狛犬の献納式。
14(金)●横須賀鎮守府で共産派三水兵の軍法会議開始。
15(土)●ドル下落。第一次大戦後の新安値を記録。
16(日)●満州の新京放送局、関東軍管理下で放送開始。
17(月)●日本労働同盟など、ILO脱退求め大会開催。
18(火)●大阪憲兵隊、毒ガス製造用塩の売買契約を国民政府と結んだ八人を利敵罪で送検。
19(水)●米、金輸出再禁止し、金本位制から離脱。
20(木)●ルネ・クレール監督「巴里祭」封切。
21(金)●大日本麦酒、ビタミン麦酒を発売。
22(土)●文部省、京大教授・滝川幸辰に「赤化的傾向」と辞職を要求(滝川事件)。
23(日)●南洋移民船「静岡丸」、ヤップ島沖で座礁。
24(月)●東京市、主事ら職員三八九人の整理を発表。
25(火)●全協再建活動家二三〇人、北海道各地で検挙。
26(水)●京城(ソウル)の「京城放送局」、朝鮮語による第二放送を開始。
27(木)●片岡千恵蔵主演「堀田隼人」封切。
28(金)●一五歳以上対象に陸軍少年航空兵制度始まる。
●文部省、拓殖訓練所設置。農業移民を訓練。
29(土)●女性登山家・中村照子ら、雪の南アルプス踏破。
30(日)●海軍戦闘機が慰霊飛行の宙返り時に空中分解。



### 証言・あの日この日

## 堀口大學(41)

**3月16日(木)**　〈東京会館にて細君と会し、朝日講堂のファッション・ショオを観に行く。満場立錐の余地なし。／朝日展覧会場の漫画展へ寄って見る。エロとグロと非常時気分横溢。どぎついもの大分ある。近年この国の漫画の進歩には驚くべきものあり〉(堀口大學「日記」)

不景気で、戦時色が強まりつつあったこの頃、国民は、時代の気分を忘れるかのように、台頭してきた大衆文化に熱狂していた。トーキー(映画)、ラジオ、レコードが普及し、カフェー、ジャズ、歌謡曲、怪奇小説が大流行。詩人・堀口大學が、この日見たのもファッション・ショーと漫画展であった。暗い世相とは無縁に生活を楽しむ人たちも多かった。「大衆消費社会」はすでにこの頃から始まっていた。科学技術の革新の波に乗って、大衆の娯楽も大きく変わりつつあった。(山崎行太郎)

朝日新聞社

▲**照宮内親王、潮干狩り(5月25日)**学習院初等科の学友らと総武線を利用、千葉県の寒川海岸(現・千葉市寒川町)に向かわれた。照宮は天皇の第1皇女、後の東久邇成子さん。

朝日新聞社

▶**滝川事件で15教授が辞表(5月26日)**文部省は京大法学部教授・滝川幸辰の講演と著作『刑法読本』などを「赤化思想」とし、休職を発令。計39人の法学部教員全員がこれに抗議した。

▶**建築家ブルーノ・タウト来日(5月3日)**社会主義者と疑われ、ナチス統治下のドイツを脱出。桂離宮など日本建築の機能美に着目し、賞賛、日本の建築界に大きな影響を残した。

『日本 タウトの日記』／岩波書店提供

朝日新聞社

◀**吉岡りう子(34)、3つ目の医学博士号取得(5月7日)**米・独に続いて東北帝大からも。東京女医学校(後の東京女子医大)創設者・吉岡弥生らが盛大に祝った。

朝日新聞社

▲**「満州国」、公使派遣(5月9日)**前年9月、日本は欺瞞的な日満議定書を結び、「満州国」独立を世界にアピールしていた。写真は東京駅で歓迎を受ける、初代駐日公使の丁士源(中央)。

## 昭和8年5月

1(月)●弁護士法改正公布。女性にも門戸開放。
2(火)●ソ連、東清鉄道の日満への譲渡を提案。
3(水)●高岡市で大仏が三三年ぶりに再建され開眼式。
●ドイツの建築家ブルーノ・タウトが来日。
4(木)●新設のゴミ焼却場から出る煤煙で、東京・深川一帯は「煙地獄」、と新聞に。
5(金)●東京・深川の失業者三五人、満州へ農業移民。
6(土)●羽田飛行場に夜間着陸照明灯完成し訓練開始。
7(日)●関東軍、再び長城線を越え関内作戦を開始。
8(月)●インドのガンジーが英の「不可触民」弾圧に反対して三週間のハンストを開始。
9(火)●横須賀海軍工廠で空母「竜驤」完成。
10(水)●ナチス学生団、「非ドイツ的書物」など焚書。
11(木)●内務省、児童虐待防止に国庫補助など決定。
12(金)●東京の缶詰問屋で待遇改善求め少年少女籠城。
13(土)●長野県下諏訪町の国用製糸研究会、無期限休業決定。女子工員二〇〇〇人が失業。
14(日)●三原山に千四百余人訪れ一日で五人が自殺。
15(月)●「五・一五事件」一周年。右翼の活動が活発化。
16(火)●退役将校中心に国家主義団体「明倫会」結成。
17(水)●国策推進に映画を活用するため、内閣直属の新部局が新設される、と新聞に。
18(木)●米ニューディール政策のテネシー渓谷開発公社法成立(6月16日、全国産業復興法成立)。
19(金)●前年の労働争議件数は二二一七件で過去一〇年で初の前年比減少、と新聞に。
20(土)●大阪初の地下鉄が梅田―心斎橋間に開業。
●ミス・コロムビア(松原操)歌「十九の春」発売。
●海軍、連合艦隊を常置。司令長官・小林躋造。
21(日)●日本軍、北平(北京)郊外の通州を占領(22日、何応欽、中国軍に北平撤退を命令)。
22(月)●国民政府、排日目的の改正関税を公布施行。
23(火)●娼妓の廓外外出が届け出不要となり自由に。
24(水)●船舶の質を高めるため、中古船の輸入を制限。
25(木)●日中、停戦予備交渉を開始。
26(金)●帝国劇場が経営不振で松竹レビュー専門に転身、築地小劇場は貸劇場に、と新聞に。
●京大、滝川教授に休職発令。法学部全教員が辞表提出。
27(土)●父島の土木工事で発破により二百余人が死傷。
28(日)●満州の新京監獄で暴動。五人射殺。
29(月)●東京・四谷で酒抜きの初の市民館結婚式。
30(火)●インフレで銀行が好業績、と新聞に。
31(水)●日中間に塘沽停戦協定成立。「満州国」黙認。

◀軍用犬、帝都行進(6月4日)大陸の戦線が拡大するとともに、連絡・警戒・捜索を行う軍用犬の必要度が増大しつつあった。陸軍省はこの日、人気女優・岡田嘉子(左)、水谷八重子(右)を招き、その普及をはかるデモを行った。

▼丹那トンネル貫通(6月19日)着工以来約15年、たび重なる事故と67人もの殉職者を出してやっと先進坑が貫通した。開通は12月1日。これで東海道本線熱海―函南間7804メートルがトンネルで接続、翌年から列車が走った。

共同通信社

共同通信社

▲天然痘流行で強制種痘(6月28日)東京で2月中旬から71人も発病、13人が死亡したため、集団発生した下谷区を中心に実施。写真は休校を掲示した同区山伏町小学校。

共同通信社

▼血盟団事件、初公判(6月28日)前年「一人一殺」による国家改造をくわだて、政財界人暗殺を実行した14人が出廷。指導者の井上日召は「暗殺は信念」と供述。

毎日新聞社

▲女給さんら「歓興税」反対叫ぶ(6月13日)東京市が実施したカフェーやバーの飲食への課税は、大衆の慰安の抑圧と主張。代表70人余が銀座パレスで絶対反対を誓い合った。

▶文部省新庁舎完成(6月)東京・虎の門の東京女学館跡地で昭和6年から建設していた鉄筋コンクリート造り6階建て建物が竣工、関東大震災以来の仮住まいを解消した。

朝日新聞社

毎日新聞社

## 昭和8年6月

1(木)●昭和製鋼所、満鉄の鞍山製鉄所を合併。
●カフェーなどへの東京市の新税「歓興税」実施。
●入江たか子主演「滝の白糸」封切。

2(金)●米アジア艦隊旗艦が親善のため横浜に入港。

3(土)●高松地裁、有罪判決理由に被差別部落出身をあげる(高松地裁差別裁判事件)。
●長崎県崎戸炭鉱でガス爆発。六十余人死亡。

4(日)●日本作曲家協会、放送協会との放送料値上げ交渉が決裂し会員作品の放送拒否を決議。

5(月)●米国聖公会の聖路加国際病院が東京に完成。

6(火)●米に世界初の自動車映画館が開業。

7(水)●共産党幹部の佐野学・鍋山貞親、転向声明。

8(木)●日本主義を掲げ日本産業労働倶楽部結成。

9(金)●徳川家達、在職三〇年の貴族院議長を辞任。

10(土)●警視庁、断食・触指法など「強健術」の創始者・西勝造に療術行為禁止処分。

11(日)●慶大の小池礼三、二〇〇㍍平泳ぎで世界新。

12(月)●内務省、公設質屋を三五九店増設と決定。

13(火)●大日本紡績連合会、インドの綿布輸入関税引き上げに反発し、インド綿花不買を決議。

14(水)●満州国中央治安維持会、設立。

15(木)●東京の水源・山口貯水池(狭山湖)が完成。

16(金)●浅草松竹座のレビューガール一三〇人がスト突入。委員長・水の江滝子。

17(土)●大阪市で信号無視の兵士と警官が争い、双方負傷(ゴーストップ事件)。

18(日)●京大総長・小西重直、滝川事件で辞表を提出。
●エチオピア皇族が日本女性の花嫁募集との報に二〇人が応募、と新聞に。

19(月)●丹那トンネル先進坑が着工一五年で貫通。

20(火)●「日本工業新聞」(現・「産経」)、大阪で創刊。

21(水)●満蒙学術調査研究団、護衛兵つきの熱河・内蒙古探検計画を決定(7月23日出発)。

22(木)●北海道庁が自作農移住者募集の新聞広告。

23(金)●婦人山岳会、東京・銀座に「山の案内所」開設。

24(土)●東京の「玉川水道会社」、悪水を供給したとの批難で料金五割引きを通知。

25(日)●早大の牧野正蔵、八〇〇㍍自由形で世界新。

26(月)●大阪と名古屋で第二放送が放送開始。

27(火)●重要美術品調査委、初めて五五五点を認定。

28(水)●東京市下谷区で天然痘患者が二七人発生。

29(木)●松坂屋店員一三〇〇人が国防婦人会分会結成。

30(金)●俳優・丸山定夫、松竹争議支援要請を拒否したエノケン一座を脱退。



# 「現場」を歩く
# 明石町
## 最先端を誇る聖路加国際病院に生き続ける「癒し」の空間

山本徹美

▲創建された当時のままの姿をとどめているチャペル。 但馬一憲



◀昭和8年6月5日に開院式が行われた聖路加国際病院。看護婦養成の聖路加女子専門学校も併設された。

聖路加国際病院提供

昭和八年六月五日午後三時、東京市京橋区明石町で聖路加国際メディカルセンター(通称、聖路加国際病院)の開院式が挙行された。式典には高松宮をはじめ東京府知事、外相、米国大使など約五〇〇人が参列、「東洋一を誇る」(「東京朝日新聞」)白亜の殿堂を参観した。

敷地面積約一万一五〇〇平方㍍、延床面積約二万三〇〇〇平方㍍。鉄骨・鉄筋コンクリート造りで地上七階、地下一階、ベッド総数二七〇床。最新医療設備を持つ病院は起工から五年の歳月を要してようやく完成したのである。建築費約五一九万円は、ロックフェラー財団や米国市民の浄財によるところが大きかった。

同院は明治三五年(一九〇二)、米国聖公会の宣教医師であるルドルフ・トイスラー博士により創設。当初からトイスラー院長の意向で、米国式病院管理が進められた。その特徴は最先端医療の導入や、公衆衛生活動、看護の重視などにある。昭和四年、同院に設置された医療社会事業部は部員が家庭訪問して衛生指導を行うもので、本邦初の試みだった。三浦半島の七町村八万人を対象に開始し、医師、保健婦、看護婦と連携。そのデータは臨床医学の各科、公衆衛生学、予防医学の分野で実績をあげた。現在その発想は、企業が実施している職場の安全衛生管理、健康管理に反映されている。

### 教会のある意味

中央区明石町にある聖路加国際病院を訪ねてみた。旧院は改築され、外観・内装ともにすっかりインテリジェントビルに変貌していた。竣工は平成四年二月。地上一〇階、地下二階、延床面積約六万平方㍍、総ベッド数五二〇床で最新メディカル・システムが導入されている。広報部の関武矩部長(六二)の話。

「旧院の象徴であるチャペルはネオゴシック建築様式で、わが国には珍しく歴史的建造物としての価値もあるので、昭和八年の状態のまま残してあります」

外壁が同色なので気がつかなかったが、聖路加看護大学のある棟の十字架塔屋部分が旧院に相当するのだ。病院に死者の霊を弔う教会が併設してあるのも興味深い。一階がチャペル入り口で、床に真鍮製の魚とオウムのレリーフ、壁には蚤、虱、蚊、蠅の彫塑が飾ってある。

「いずれも病原菌を媒介する生物です。発案者は不明ですが、衛生観念を認識させようとしたのでしょう」(関部長)

いかにもアメリカ人らしいユーモアのセンスが感じられる。礼拝堂は階段を上がって二階にあり、吹き抜けの天井はトップが十字架の真下(塔屋部分)にあたる。背後にはパイプオルガン。ステンドグラスから差しこむ光が宗教空間を醸し出し、心をなごませてくれる。そこには患者の心理面までケアしようとする意思がうかがえた。そこでようやく私は気づいた。最先端医療もさることながら、教会にかようのも「癒し」なのである。治療をほどこすのは医師だけではないということを、この建物がものがたっている。

▼チャペル入り口の壁に飾られている彫塑。右列上・蚤、下・虱、左列上・蚊、下・蠅。

大橋俊夫

## ベストセラー
# 「ただ嘆息するばかりの名作」谷崎美学の頂点『春琴抄』刊行

谷崎潤一郎の名作『春琴抄』（創元社）がこの年刊行され、話題を集めた。川端康成は「ただ嘆息するばかりの名作」と記し、正宗白鳥は「一語を挿むこと能はざるべし」と絶賛した。

物語は、主人の娘であり三味線の師匠でもある、盲目の美女・春琴につかえる佐助の、献身的な愛が主軸になっている。中でも春琴がその美しい顔に深い傷を負うや、みずからの眼を突いて「私はめしいになりました。もう一生涯お顔を見ることはござりませぬ」と彼女に告げる、その前後のシーンは壮絶でさえある。句読点をほとんど打たずに流れていく独特の文体と、みずから装丁にアイディアを出したという、黒漆塗に金蒔絵文字を配した表紙や本文のデザインを含めて、〝谷崎美学〟のひとつの頂点をきわめた本だった。

美学というと、詩人にして独自の美学を打ち立てた西脇順三郎の代表的な詩集『Ambarvalia（アムバルワリア）』（椎の木社）も、この年刊行されている。序詩に「浮き上れミユウズよ汝は最近あまり深くポエジイの中にもぐつている」と書き、詩神を大いに遊ばせようと試みた。蛇使いを写した外国の風俗写真など、不思議なビジュアル効果を持つ写真を四枚はさんでいるのも奇妙だった。

また、この年のベストセラーとして大いに注目を集めたものに、山本有三の『女の一生』（中央公論社）がある。ヒロイン御木允子の半生記だが、従来の〝女の一生〟ものにはない斬新さがあった。恋人を友人に奪われてから、積極的な生き方に転じた允子は、大胆な恋愛を経て未婚の母になるとともに、自身医師免許を取得するなど、まさに新しい時代にふさわしい女性だった。息子の教育にも熱心だったが、その息子がやがて左翼運動に入っていったことを知る……。

「朝日新聞」連載中に山本有三自身に左翼の嫌疑がかかり検挙されるという事件が起き、連載は中止された。すぐ釈放となったが、連載の復活はかなわず、後半部を書きおろして刊行にこぎつけた。

▼『春琴抄』（1円90銭）

▲『女の一生』（1円80銭）

▲『Ambarvalia』（1円70銭）

日本近代文学館提供

## スターと名場面
# 大河内傳次郎の当たり役「丹下左膳」第一作誕生！

この頃は、無声映画からトーキーへの過渡期だったが、両方で活躍した映画監督に伊藤大輔がいる。そのトーキー第一作が、大河内傳次郎主演の「丹下左膳」だった。話は道場乗っ取りや埋蔵金争奪戦などがからむ、いかにも時代劇なのだが、伊藤監督は台詞やサウンドを十分に活用してその腕の冴えを見せた。また大河内傳次郎は、この作品をきっかけに、丹下左膳を当たり役にし、シリーズ一七作に主演、一世を風靡した。

また無声映画では「滝の白糸」が公開された。これは溝口健二監督が自分の映画美学を明確に映像化した傑作で、泉鏡花の原作に新しいイメージを与えた。

外国映画ではこの年、名作「グランド・ホテル」が公開されている。グレタ・ガルボ演じる、舞台の悩みを抱えたバレリーナ。彼女と恋におちいる、お金に苦しんでいる男爵。短い余命を宣告された男……。たまたま同じホテルに宿泊した人人の織りなす人生模様が、時間の流れにそって映し出された。後にこのような同時進行型のストーリー展開を〝グランド・ホテル形式〟と称するようになった。

この年ほかに次のような作品が公開された。かっこ内はおもな出演者。

「伊豆の踊子」（田中絹代）「キング・コング」（フェイ・レイ）

マツダ映画社提供

▲「シェイ（姓）は丹下、名はシャゼン（左膳）……」の台詞で名を馳せた「丹下左膳」の主演・大河内傳次郎。左は山田五十鈴。

川喜多記念映画文化財団提供

マツダ映画社提供

▲「滝の白糸」では、人気俳優、入江たか子（右）と岡田時彦（左）が共演した。

◀「グランド・ホテル」でバレリーナを演じたグレタ・ガルボ（左）と、男爵を演じたジョン・バリモア（右）。



## モノ語り'33
# 〝栄養〟と〝お洒落〟のための新商品「わかもと」「ビスコ」に「丹頂チック」「カーレン」

**▲胃の薬で栄養補給**　栄養と育児の会（現・わかもと製薬）から発売されていた、消化、整腸、栄養補給の3つの要素を兼ね備えた薬、新薬「わかもと」が、ヒットし始めた。この頃はビタミンB群不足に悩む人が多く、その補給は大きな関心事だった。新薬「わかもと」は、消化と整腸の薬であるとともに、ビール酵母を天然のビタミンB群の資源として利用しており、栄養補給もできる薬と評判になった。粉末（左上）が90グラム入り1円60銭、錠剤（左下）は60錠入りで50銭だった。

**▶国産のチックが市場を席巻した**　今世紀に入って、それまでのびんつけ油に代わるチックが輸入され、利用されるようになっていた。しかしこの年の4月15日、ついに輸入品に対抗しうるだけのクオリティを持った、国産の「丹頂チック」が金鶴香水（現・マンダム）から発売された。大型1円20銭（写真）、中型75銭だったが、出荷が間に合わないほどの反響を呼び、たちまち市場を制覇し、そのままロングセラーとなっていった。

**▲商売に必要なはかりが正確になった**　食品などははかり売りが多かった時代だから、正確なはかりを求める声は高かった。そんな時、石田衡器製作所（現・イシダ）は、天秤式のはかりに代わる自動ばかりを製造したが、季節の温度変化によって誤差が生じるという致命的な欠陥があった。これを克服して、この年発売したのが「石田式不変敏感自動秤」で、大好評をもって市場に迎えられた。

**◀新しいビスケットの登場**　大正11年にグリコを発売した江崎商店（現・江崎グリコ）はこの年、グリコに次ぐ栄養菓子として、「ビスコ」を1箱10銭で発売した。当時その栄養効果が話題になっていた酵母に注目、これをビスケットに入れるというアイディアだった。ただしビスケットは焼いて作るので酵母が壊れてしまう。そこでクリームサンドのビスケットにして、クリーム部分に酵母を入れるという方法を開発、発売にこぎつけたもの。

**◀万年筆のインキ吸入方式に革命**　万年筆が便利な筆記具であるためには、インキを十分補給でき、使う時はインキがスムーズに出て、不用意にもれたりしないことが条件となる。そんな条件を満たした「P型インキ止自吸式万年筆」を、この年、並木製作所（現・パイロット）が発売。万年筆のボディから芯棒を引き出し、インキ壺にペン先を入れながら芯棒をボディに押しこむと、自動的にインキを吸い上げ、補給できるというもの。標準的なもので1本5円からだった。

### 視覚効果を追求したキャラクター

「ビスコ」が〝おいしい〟栄養菓子であることを強調するために、販売促進用のキャラクターには、ドイツのポスターをヒントにして、お菓子を頬張る男の子のイラストが採用された。写真は発売当時の販売台だが、このキャラクターが、マイナーチェンジを繰り返して、現在のキャラクターになった。この点は、同じ会社から発売されていた「グリコ」の両手をあげて走るランナーと同じで、時代に即した視覚効果を追求している。

◀キャラクターを大きく扱った販売台。

**▶どんどん進むお洒落の世界**　美容界の最先端を走っていたメイ牛山のハリウッド美容研究室（現・ハリウッド）が、この年2月、まつ毛・眉毛の育毛促進クリーム「カーレン」を発売、新しい美容方法を流行させた。アイポイントメークアップ化粧品も発売しており、その関連製品としても人気を呼んだ。

▲緑波が残した大量の日記は、昭和の風俗を知るための貴重な資料。また緑波は希代の美食家としても知られた。写真は子役の悦ちゃんと。

人物クローズアップ

# 古川緑波（二九）

## 夢声らと「笑の王国」を旗揚げ エノケンと並ぶ大スターに！

◀家族での記念撮影。古川緑波を中心に、妻・道子（本名・夏江）と長男の清。昭和18年頃の撮影。　古川清提供

昭和八年四月一日、古川緑波（二九）、徳川夢声（三八）、渡辺篤（三四）らを中心にした劇団「笑の王国」が、東京・浅草の常盤座で旗揚げした。劇団のメンバーは、いわば寄せ集めの混成部隊で、徳川夢声のほかに、大辻司郎、山野一郎らの元活弁組、小杉勇、島耕二、岸井明らの日活脱退組、さらに映画畑から、渡辺篤のほか、横尾泥海男、三益愛子、清川虹子などが加わった。

第一回公演は「恋愛延長戦」「珍お蝶夫人」「昭和新撰組」「御婦人は何がお好き」「凸凹放送局」の五本立て。派手な前宣伝と、入場料三〇銭で昼夜通して七時間観劇できるとあって、初日から大入り満員の大盛況。ロッパ（舞台名は片仮名）は一躍、エノケン（榎本健一＝二八）と並ぶ浅草の大スターに躍り出た。

古川緑波は、明治三六年八月一三日、東京市麹町区五番町（現・東京都千代田区）生まれ。本名は郁郎。父は元貴族院議員の加藤照麿男爵で、緑波はその六男として生まれたが、長男以外は養子にやるという加藤家の方針で、緑波こと郁郎も満鉄（南満州鉄道）の役員である古川家の養子になった。

古川緑波は批評家としての才能に優れ、しかも早熟だった。早稲田第一高等学院の生徒だった八歳の時には、すでに映画雑誌「キネマ旬報」の同人だった。大正一三年、早大文学部英文科に入学。この年七月、菊池寛に招かれて文藝春秋社の「映画時代」の編集にあたっている。こうした緑波について作家の小林信彦は「私は、ロッパという人は大ジャーナリストの器であったと考えている」（『日本の喜劇人』）と書いている。

喜劇役者の道を歩み始めたのは、昭和七年、菊池寛と東京宝塚劇場社長の小林一三の勧めによるもので、以降、作者兼主役として、緑波の八面六臂の活躍が始まるのである。一〇年、緑波にもうひとつの転機が来る。松竹系の「笑の王国」を脱退し、東宝に移って自前の「東宝ヴァラエティ・古川緑波一座」を結成、その座長となった。この時期から一五年頃までの間、緑波は最盛期を迎える。本拠地を有楽座に移した一座は、菊田一夫、サトウハチローを座つき作者に加え、座員には山茶花究、森繁久弥などの若手も加わって、喜劇界の頂点に立った。

緑波の芸について、劇作家で『古川ロッパ昭和日記』の監修者でもある滝大作氏は、こう述べる。

「ジャーナリストから転向した緑波は、動きを身上としたエノケンとはまるで違って、口から飛び出すボキャブラリーの芸でした。エノケンを下町の芸とすると、緑波は山の手の芸なんです」

緑波にはもうひとつ、声帯模写というきわめつけの芸があった。これは緑波の造語で、ただの声色ではないという意味である。徳川夢声が倒れた時、緑波が夢声の声帯模写で放送時間を埋め、聴取者はそれにまったく気づかなかったという。

戦後、緑波の芸は一気に過去のものとなった。時代に乗り切れず、身上の語りの芸が面白くもおかしくもない緑波。滝大作氏は「緑波には民主主義が理解できなかった。時代からはぐれてしまったんです」と語る。

昭和三六年一月一六日没。享年五七

▲昭和8年、常盤座での「笑の王国」の舞台「夏と伊達者（ダンディー）」。緑波の左は三益愛子。　古川清提供

**決定的瞬間**

# 共産党員ルッペの単独犯か ヒトラーとナチスの陰謀か ドイツ国会議事堂炎上の怪

一九三三年二月二七日、夜九時頃、国会議事堂が炎上していることをベルリン市民はラジオを通じて知った。副首相をつとめるパーペン（保守系の大物政治家）の秘書だった青年は、消防士に阻止されて敷地内には入れなかったが、「巨大な建物が広範囲に炎上し、ドーム型の屋根からも炎が舌のようにたち上がっていた」（『回想の第三帝国』アレクサンダー・シュタールベルク 平凡社）と述べている。現場には、首相になって一ヵ月たらずのヒトラー（四三）やゲーリング無任所相兼プロイセン内相（四〇）など、ナチス党幹部も駆けつけていた。ゲーリングは「これで共産党をこころおきなく弾圧できる」と自分の膝をたたいて喜び、ヒトラーは、「おしゃべり小屋が存在しなくなったことに満足の意を表していた」と現場にいたパーペン副首相は、後に青年に語っている（前掲書）。

放火犯人はファン・デル・ルッペ（二四）というオランダの共産党員で、単独犯として現場で逮捕された。しかし、この国会議事堂炎上には多くの疑問が残されている。広壮な建造物である議事堂を、短時間のうちに一人で燃やせただろうか、またルッペは麻薬常用者で、「ナチス党に利用されたのではないか」という疑惑も残る。

当時消火活動を指揮した消防署長は〝単独犯説〟に疑問を感じ、現場検証を詳細に行ったが、数週間後に職を解かれて勾留され、独房で絞殺されてしまう。街では、ゲーリングとその配下の突撃隊が地下道から議事堂に入り放火した、という噂が流れていた。いずれにせよ、関係者と思われる人物が何人か変死して、事実はうやむやになった。

この火災の翌日には、国会を危機におとしいれる共産党の暴力行為から国家と国民を守るという趣旨の「緊急令」が発令され、共産党員に対して大々的な弾圧が始まった。

第一次世界大戦の敗北から一四年目、この年の一月三〇日にヒトラーは政権を獲得した。その日の夜、ナチス突撃隊による大々的な松明行列が行われ、またヒトラーはラジオを通じて「一四年間の共和制が犯した罪障を償うため新政権に四年の猶予を与えたまえ」と演説した。ヒトラーがまず実行しようとしたことは、共産主義者の殲滅と、「デモクラシーという諸悪の根源」（ヒトラーの言葉）を断つ、ということであった。その目的のために彼は二月一日に国会を解散、三月五日に総選挙を行うことを告示。選挙運動を通じてナチスの基礎を固め、左派勢力を葬ろうとしたのである。二月一七日には「共産党の蜂起を阻止する」という名目のもとに、ゲーリングが指揮するプロイセン警察が共産党本部を急襲する。そうした緊迫した状況下での、突然の国会議事堂炎上だった。

三月五日の総選挙の結果、ナチス党は社会民主党一二〇議席、共産党八一議席を押さえ、二八八議席を獲得し、四日後の三月九日には共産党を非合法化し、独裁の座を強固にした。

莫大な賠償金支払い、不況と失業者の群れ、こうした危機を抜け出すため、ドイツ国民はヒトラーを選んだ。しかしヒトラーの勝利は「国会議事堂の炎上」という狼煙を上げて二〇世紀最大の悲劇、第二次世界大戦へと歩み始めていた。

▲1月30日夜、ブランデンブルク門を通過する、ヒトラー首相就任を祝う松明行進。1万5000人余が参加。 WWP

▲炎上する国会議事堂。放火犯としてオランダ人青年が逮捕されるが、放火個所は20ヵ所以上とも言われ、単独放火説には疑問が残った。 bpk PPS

美の出会い

# 現在は東京都庭園美術館に"アール・デコ"の傑作建築 朝香宮邸、白金台に完成！

◀正面玄関のガラス扉。朝香宮邸に入ると、まっ先に目に入るのが、このラリックの女性像である。

昭和八年の五月、東京市芝区白金台町（現・港区）に、"アール・デコ"という耳慣れない様式の建物が出現した。「幻のアール・デコの館」と呼ばれる朝香宮邸である。

中庭を四角く取り囲む建物は二階建て。一階の玄関から大広間、大食堂、大客室などの公的スペースは、床から壁面、天井をはじめ、扉や照明、ドアの把手にいたるまで、すべてアール・デコという直線と円弧の組み合わせによる幾何学的な装飾様式で統一されている。公的な一階部分に比べ、二階の私室は、家族の好みをより反映した壁紙が選ばれ、落ち着いた意匠で構成されている。各部屋が、それぞれ目的に合わせて機能的にデザインされながら、全体がみごとにアール・デコの様式になっている。当時、この新邸は、建築家やデザイナーの間でも、アール・デコの逸品らしいと噂される程度で、詳細は知られていなかった。

朝香宮家は、久邇宮家の八男・鳩彦王が一九歳になった明治三九年、明治天皇の特旨によって創立された宮家である。その四年後の明治四三年に鳩彦王と明治天皇の八女・允子内親王との結婚に際し、白金台に約一万坪の土地を賜った。この土地に朝香宮がアール・デコの館を建設しようとしたのは、大正一一年一〇月のフランス留学がきっかけとなった。

パリ滞在中の大正一四年七月、朝香宮は当地で開催された「現代装飾・産業美術国際博覧会」（後に通称「アール・デコ博」）と出会ったのである。ちなみにアール・デコの名称は、この博覧会に由来する。前世紀末からヨーロッパで流行したアール・ヌーボーの装飾過多に食傷した建築家や工芸家たちは、機能的で量産できる建物や製品に美の本質を求めるようになった。そこで生まれてきたのが、流線形や、ジグザグ模様など単純な直線を使った幾何学的な装飾様式である。

この博覧会で朝香宮夫妻は、ルネ・ラリック（一八六〇～一九四五）の美しいガラス工芸やモダニズムの建築家ル・コルビュジエ（一八八七～一九六五）の建物などに心を奪われた。帰国後、朝香宮はさっそく白金台に建てる新邸の構想に着手。設計を「アール・デコ博」で活躍したフランスのインテリア・デザイナー、アンリ・ラパンに依頼した。その詳細は不明な部分が多く、明らかにされていないが、実際の設計は、宮内省内匠寮工務課で行われ、権藤要吉が担当した。ラパンは一階の大広間、大客室、大食堂と二階の書斎など、おもな六部屋分の内装をデザインし、そのほかの部分を内匠寮が設計したと言われている。

昭和六年四月、ラパンおよび内匠寮による設計図をもとに、戸田組が工事を開始する。ラパンが依頼したラリックの女性像ガラス・レリーフの扉やフランスのセーブル社製の香水塔など、海外から次々と送られてくるが、中には運搬の遅れや、途中で破損するものなども出てきて、工事は二年にもおよんだ。

▲大客室のシャンデリア。アール・デコ様式で統一された部屋にぴったりマッチしたラリックの作品である。

朝香宮の次女・大給湛子さんは、次のように回想している。「わりに母の趣味があるんじゃないかと思いますね。もちろん父自身は、あの家は私が建てた家だと言っていましたが、まあ、二人で協力して造った家だと思いますね」（『朝香宮邸のアール・デコ』東京都文化振興会）。

この建物と敷地は、戦後、西武鉄道の堤康次郎に売却され、政府が借用し白金迎賓館として利用されていた。それが一般の人々にも公開されるようになったのは、昭和五八年に東京都庭園美術館として開館されてからである。

「日本では珍しいアール・デコ様式の建物なので、保存するだけでなく、どう活用するかの議論がなされ、最も理想的な活用である美術館にするのがふさわしいということになりました」

と東京都庭園美術館の学芸員・牟田行秀氏は語る。ここを訪れた人は、一度に建物と庭と展覧会の展示といった三つの楽しみを得られるのだ。

熊切圭介（3点とも）

▲朝香宮邸（現・東京都庭園美術館）の外観。鉄筋コンクリート造りの建物の外観は一見、質素に見える。

20世紀博物館

# ライター博物館

東京・墨田区

## 世界各国の応接間を飾った〝パーラー・ライター〟の数々

桑原茂夫

◀パーラー・ライターの傑作。オーストリア製、1920年代の〝絨毯を売る男〟。

乙咩雅一

東京は浅草側から隅田川を渡った下町に、おもにヨーロッパのアンティーク・ライターのコレクションを展示している「ライター博物館」がある。アンティークショップ・ビルの三階の一角にある三〇平方㍍ほどの小さな博物館である。しかしスペースは小さいが中身は濃い。

今では希少なものとなり、その価値を高めているライターが多数展示されているからというだけでなく、アンティークとはいえ、モノが生きた状態、つまりいつでも使える状態でおいてあるのだから、展示空間の密度が濃いのである。

ライターは言ってみれば〝簡易火起こし器〟であり、その火起こしメカニズムにも大いに興味が湧くところだ。実際、携帯用のいわゆるポケット・ライターに関心を持つ人の多くは男性で、やはりその火起こしメカニズムが話題になる。

▼アメリカのライター、〝ショーガール〟。

▼当時のドイツらしい、地球を支える男のライター。

しかし「ライター博物館」の穴水佐起子館長は、メカニズムよりも、ライターの姿かたちに関心を持った。それが、時代や地域の文化を反映しているところに興味をそそられたのである。となると、テーブルにおかれるタイプの〝パーラー・ライター〟に必然的に手が伸びていくことになる。パーラーとは応接間のこと。つまり卓上型ライターには、その時代、その地域の応接間の雰囲気が漂っているというわけだ。

地球を背負う男を象った第二次大戦前のドイツのライター。〝世界に冠たるドイツ〟の自負が映し出されている。ラクダに乗って絨毯を売る男という、凝ったシーンのライターは、一九二〇年代のオーストリアのもの。オーストリアはパーラー・ライターの本場。さすがに完成度が高い。そして下半身のヌードとシルクハットというショーガールをイメージさせるライターは、ショー好きのアメリカのもの。短銃の形をしたものはポケット・ライターにも少なくないが、パーラー・ライターの傑作、抜きんでて洒落たデザインの短銃形ライターはイギリスのもの……といった具合だ。

▼東京都墨田区の〝小さな博物館〟グループに属しているが、展示物は不思議な魅力にあふれている。

ところで穴水さんがパーラー・ライターのコレクションを始めたのは、社会学の勉強のために留学していたイギリスで、アンティークに対する本当の見方、考え方を知ってからのこと。

留学中に滞在していた家は爵位を持つ古い格式のある家だったが、そこではティータイムでも〝今日は一七世紀のカップで飲んでみましょう〟というようにアンティークが日常生活に溶けこんでいた。実際に使ってこそのアンティーク。使ってさらに輝きを増すのである。しかもアンティークには、作られた時から現在まで、滔々と流れて来た時間がたたえられている。それを使うことによって、自分もその大きな時間の流れの中にいることが、実感できるというのだ。そんな穴水さんのコレクションだ。たかがライターなどと言うなかれ。見る側も大きな時間の流れの中にいることをあらためて感じさせてくれるのである。

●ライター博物館
東京都墨田区向島一―二七―六　IVY向島ビル
☎〇三―三六二二―一六四九
東武伊勢崎線業平橋駅下車、徒歩二分
開館時間＝一〇時～一八時半
休館日＝祝日、年末年始
入館料＝無料

▲館長の穴水佐起子さんの、アンティークに対する考え方は、ただ飾るのではなく、使えるものであることが大きなポイントになっている。



# 赤紫にはれ上がった下腹部、錐で刺した穴、焼け火箸の傷跡……特高警察、作家・小林多喜二を虐殺！

▲昭和8年2月22日午前1時頃、自宅に帰った多喜二の遺体を前にした友人たち。前列左より鹿地亘、山田清三郎、立野信之、上野壮夫、田辺耕一郎、原泉。

若きプロレタリア作家・小林多喜二が、昭和八年、特高警察の拷問で虐殺された。全身に凄惨なリンチの跡が歴然としていたが、警察は「心臓麻痺」と強弁。治安維持法は、最高刑を死刑としていたが、実際の適用は皆無だった。しかし、治安維持法体制下で、こうした実質的な「死刑執行」は、一〇〇人を超えたという。

## 三時間にわたる拷問に多喜二は黙秘を続けた

それは凄惨という以外に言いようのない、見るも無惨な死体であった。『蟹工船』『党生活者』で脚光をあびていたプロレタリア作家・小林多喜二（二九）は、昭和八年二月二〇日正午頃、東京・築地署の特高（特別高等警察）に検挙され、三時間にわたる拷問のすえ、午後七時四五分、絶命した。翌日夜、変わりはてた姿で、母親など遺族、千田是也（二八）、鹿地亘（二九）、壺井栄（三三）、宮本百合子（三四）など関係者の待つ東京・杉並の自宅に返されたのである。

多喜二の実母・セキ（五九）は、この日の模様を、こう語っていた。「首や手首には、ロープで思いっきり縛り付けた

▶昭和六年頃の小林多喜二。共産党に入党した頃。

日本近代文学館提供

◀拷問の跡もなまなましい多喜二の遺体。警察の「心臓麻痺」の発表に母・セキは「子どもの時から心臓病なんかしたことありません」と語った。

木挽社提供

跡がある。ズボンを誰かが脱がせた時は、みんな一斉に悲鳴を上げて、ものもいえんかった。下っ腹から両膝まで、墨と赤インクでもまぜて塗ったかと思うほどの恐ろしいほどの色、いつもの多喜二の足の二倍にもふくらんでいた」（三浦綾子『母』）

多喜二は、捕まった雪模様の日、スパイだった三橋留吉という男と約束していた赤坂の喫茶店を訪れた。当時、地下活動中だった多喜二は、大縞の着物にマントを羽織り、ロイド眼鏡にソフト帽、そして下駄という変装した姿だった。ところがそこにいたのは特高のメンバーだった。雪で滑り、逃げられなかった多喜二は、プロレタリア作家同盟員の今村恒夫とともに捕らわれ、築地署にトラックで連行された。多喜二らは黙秘を貫いた。

多喜二虐殺から二年後に釈放となった今村から聞いた話を作家・江口渙がこう語っている。

「二人とも名前を言わなかった。そうしたら警視庁から中川というね、ナップ係の警部がテロ係の男二人を連れて来て、『オイ、小林、恐れ入ったろう』といったら小林がね、今村をかえりみて『今村、こうなったら最後まで頑張ろうぜ』っていうと、テロ係がいっせいにね、木刀と太い桜ステッキで打ってかかって、それから二時間、拷問が続いたけれども、小林はついに何も言わなかったんですよ」（東京12チャンネル社会教養部編『暗い夜の記憶』）

多喜二に加えられた傷は、母・セキの回想だけにとどまっていなかった。母はあの時のことは思い出したくない、と言いながら語っていた。母が故意に言い落としたのかもしれないが、多喜二の指は折られてぶら下がり、手の甲についてしまう状態だった。そして前歯は折れ、明らかに靴で蹴られたと見られる睾丸も、陰茎も普通の三倍くらいに膨れあがっていた。こめかみや二の腕には、焼け火箸を突き刺したらしい赤茶色のくぼみがあり、太股には、錐か千枚通しで刺されたような穴が十五、六ヵ所も残っていた。何があったのかは明らかだった。

だが、警察は、「死因は心臓麻痺」と強弁し続けた。関係者が望んだ死因解明のための遺体解剖に応じる医療機関はなく、通夜、葬儀の参列者は軒並み検束されるありさまだった。

## 「蟹工船」で人気作家にそして実践活動で潜行

明治三六年一〇月一三日、秋田の寒村の貧しい農家の次男として誕生した多喜二は、四歳の時、伯父をたよって一家で小樽に移り住む。そして小樽高商を卒業、北海道拓殖銀行に入行する。高商在学中から短編を書き始め、ロシア文学に親しむようになる。前後して社会主義に接近、昭和二年八月、労農作家連盟に参加、次いで翌三年、全日本無産者芸術連盟（ナップ）の機関誌「戦旗」に「一九二八年三月一五日」を発表する。これは共産党への一斉弾圧がテーマだったが、この中で多喜二は、凄惨な拷問ぶりを描写している。この暴露が警察の逆鱗に触れたのだった。加えて当時の「戦旗」は、昭和三年の創刊当時の七〇〇〇部から、二万部強となる著しい伸張を示していた。当時の「中央公論」が一万部だったことから、その影響力の大きさがうかがえる。

昭和四年春、代表作「蟹工船」が同じ「戦旗」に発表され、大きな反響を呼び、多喜二は広く文壇にも認められる。さらに「蟹工船」はこの年秋、単行本となり、初版が一万五〇〇〇部にのぼっただけでなく、帝劇で舞台化もされた。さらに五ヵ国語に翻訳されてもいる。

作家活動の一方で、多喜二は実践活動に身を投じていた。昭和五年に上京、翌六年一〇月には共産党に入党し、一一月には「日本プロレタリア作家同盟」（ナルプ）の書記長に就任している。当時の共産党は、「三・一五事件」など、たてつづけの一斉検挙で指導部が手薄となり、従来のシンパ層が相次ぎ入党し、新たな指導部を形成せざるをえなかったのである。多喜二はその一員だった。多喜二は昭和七年四月以降、地下に潜行する。そして一年たらずの地下生活のすえ、ついに特高警察の餌食となったのだった。

多喜二の死に対し、中国の文学者であり思想家である魯迅は「我々は堅く同志小林の血路に沿って、前進し、握手をするのだ」との日本語の弔電を寄せ、小林が私淑していた作家・志賀直哉は、母のセキに「前途ある作家としても実に惜しく（中略）不自然なる御死去の様子を考えアンタンたる気持ちになりました」との書簡を送ったのである。

その後、多喜二の作品は全面発禁となり、ふたたび読者の目に触れるのは、日本の敗戦まで待たなければならなかったのである。

▶佐土哲二、千田是也があわただしく製作した「多喜二」のデスマスク。

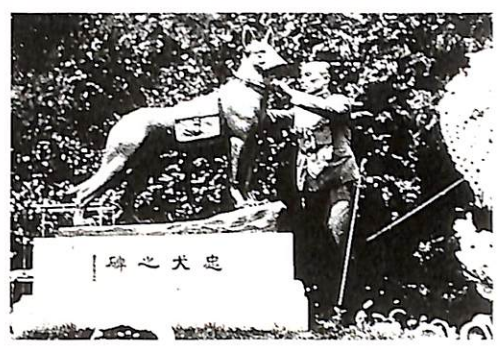
木挽社提供

▼多喜二の遺体を抱きしめた母・セキは「それ、もう一度立たねか、みんなのためもう一度立たねか！」と叫んだ。

# 7~8月

## フォト＋日録で再現する365日

▼**レコード安売り合戦（7月）**前年大阪で始まった2割引き販売を契機に、レコード各社が80銭の廉価盤を発売。50万枚販売をめざす日本コロムビアはこの月宣伝カーを投入した。写真は「コロムビアニュース」の表紙。

日本コロムビア提供

▲**神奈川県逗子で「忠犬の碑」除幕式（7月7日）**「満州事変」北大営の突撃で板倉少佐と死んだ愛犬ジュリー、軍用犬の金剛・那智を合祀した。陸軍省は2頭に、軍用犬では初の「金鵄勲章」を贈った。

▼**米大リーグ、初のオールスター戦開催（7月6日）**ファン投票で選ばれた人気選手が、シカゴのコミスキー・スタジアムで熱戦を展開。ベーブ・ルースの活躍によりア軍（写真）が4対2で勝った。

CORBIS-BETTMANN／PPS

▲**愛媛の名城、松山城炎上（7月9日）**小天守閣の櫓付近から出火。山頂のために水の便が悪く、1852年再建の天守閣をのぞく大半を焼失した。同城は17世紀初頭に加藤嘉明が築城、国宝指定が検討されていた。

安田元久所蔵

▲**神兵隊事件発覚（7月10日）**皇族内閣樹立をめざしたクーデター未遂事件で、49人が検挙された。写真は主謀者の弁護士・天野辰夫（左）と陸軍予備中佐・安田銕之助。

▼**"真珠王"御木本幸吉、信用回復のデモ（7月10日）**粗悪品輸出で日本産真珠の信用が下落、神戸商工会議所前で規格外の135キロ、4万8000円相当を焼却した。

毎日新聞社

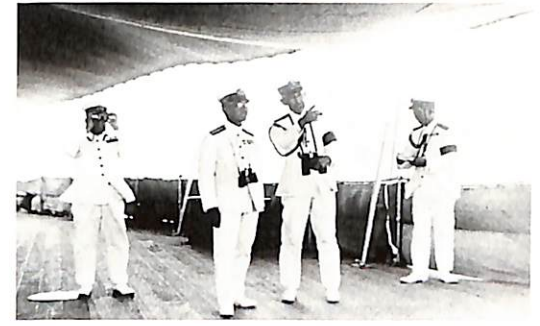
### 昭和8年7月

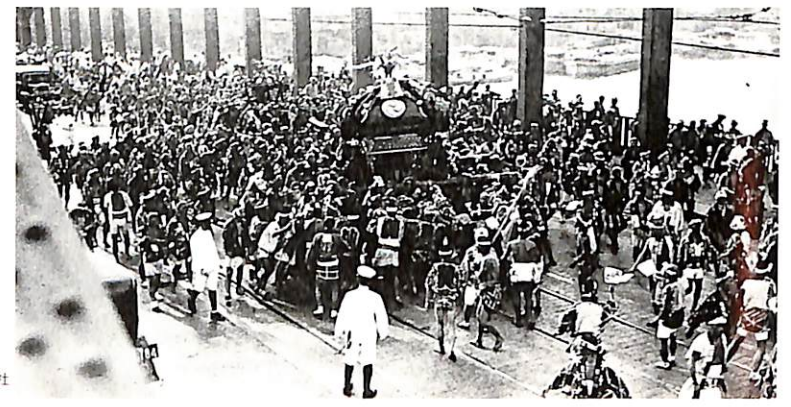
1（土）●秋田県が群馬県に次いで公娼を廃止。
2（日）●干害で埼玉県荒川両岸の水争い激化し、北岸の農民三千余人が南岸の御正堰用水を破壊。
3（月）●日銀、公定歩合を過去最低の一銭に引き下げ。
4（火）●社会大衆党、「転換期日本の建設政策」発表。党内に「ファッショに協力の危険」との批判も。
5（水）●木下サーカスの象二頭、大阪で貨車から脱走。
6（木）●横山大観ら、メートル法反対運動を開始。
7（金）●陸軍省、戦死軍用犬に初の軍用犬功労章授与。
8（土）●文部省、国民教育読本『非常時と国民の覚悟』一〇万部を学校・青少年団体に発送。
9（日）●松山城が放火され、大天守のぞく大半が焼失。
10（月）●天野辰夫・大日本生産党などの右翼クーデター計画が発覚。四九人検挙（神兵隊事件）。
●早大戸塚球場に初の夜間照明設備が完成。
●富士山頂の天気予報のラジオ放送が始まる。
11（火）●文部省、滝川事件で辞表提出の京大法学部教授団切り崩しのため、三九人中六人を免官。
12（水）●関東映画従業員大会。トーキー化の犠牲反対。
13（木）●郡是製糸、ニューヨーク・グンゼ・シルクコーポレーションを設立。
14（金）●東京―ソウル間に直通電話開通。
15（土）●中央本線始発駅が飯田町駅から新宿駅に変更。
16（日）●松竹歌劇団争議、最低賃金など定めて解決。
●福岡県で血盟団まねた「少年正義団血党」検挙。
17（月）●ゴーストップ事件で第四師団が警官を告訴。
18（火）●関東地方防空予行演習で灯火管制を実施。
19（水）●慶応大学自動車協会、東京―大阪を二九時間三〇分でノンストップ走破。
20（木）●長崎県警察、海水浴場の男女混泳禁止を通告。
21（金）●靖国神社で「夏休み非常時ラジオ体操の会」。
22（土）●「満州国」、日満経済ブロック化を目的とする新関税税率公布。
23（日）●大連で「満州大博覧会」開幕。
24（月）●三井、王子製紙株を売却（財閥の株式公開化）。
25（火）●山形市で観測史上最高気温四〇・八度を記録。
26（水）●東京で小学校九校に放火の一六歳の少年逮捕。
27（木）●松竹、トーキー俳優採用試験を実施。
28（金）●東京で防空予行演習中の防護団員が、警官の指示で点灯通行した円タクの運転手に暴行。
29（土）●石炭鉱業連合会、需要増加により年五㌫（一〇〇万㌧）の送炭緩和を決定。
30（日）●第一回東京湾縦断競漕。横浜―品川二一㍄。
31（月）●海軍省、艦艇三六隻建造など補充予算を要求。



◀**軍民一体の関東防空演習（8月9日）**各国の空軍力増強から、防空対策強化の必要性を認めた軍部が、初の大演習を実施した。写真は防毒マスク着用で救護訓練を行う少年少女。

毎日新聞社

▲**キューバで革命（8月12日）**政権の腐敗とアメリカ支配による生活難から、農民・都市住民が蜂起。この混乱下、後に独裁者となる下級軍人のバチスタが、軍の実権を掌握する。

▶**天皇、海軍特別大演習を統監（8月16日）**御召艦「比叡」で神奈川県・横須賀軍港を出航。八丈島周辺で6日間行われた青軍、赤軍に分かれての対抗演習を統監した。写真は「比叡」艦上の天皇（左から二人目）と軍令部長・伏見宮博恭王（その右）。

▼**「東京音頭」大流行（8月）**東京・芝公園での盆踊り大会を機に大ヒット。キャバレーでは従業員が浴衣姿で踊り、客を呼んだ（写真）。西条八十作詞、中山晋平作曲で、歌は小唄勝太郎・三島一声。

ビクターエンタテインメント提供

宮松金次郎

▲**帝都電鉄開通（8月1日）**7年6月に着工したもので、東京の渋谷―井の頭公園を25分で結んだ（現・京王井の頭線）。女性車掌が乗務。9年4月に吉祥寺まで延長された。

▶**126年ぶり永代橋渡御（8月15日）**東京・深川八幡宮の祭礼で、神輿62基が改架された永代橋を渡った。文化4年（1807）の祭礼で橋が落下、死者が出て以来、渡御は禁止だった。

朝日新聞社

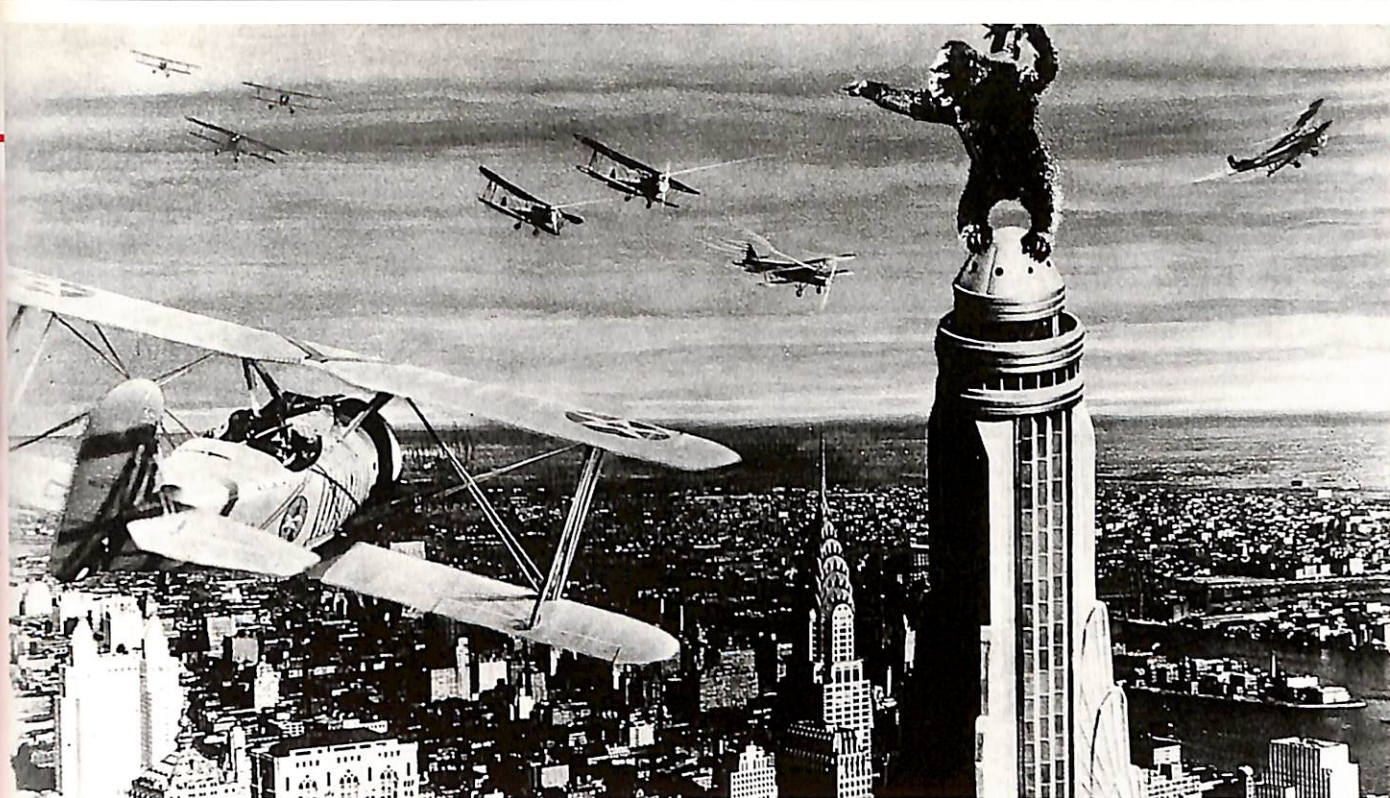
### 昭和8年8月

1（火）●専売局、印刷局に続き八時間労働制を実施。
2（水）●輸出農水産物に国営検査実施と農林省決定。
3（木）●日本労働同盟、日本主義派が脱退し分裂。
4（金）●府立職業紹介所、男性モデルの求人申し込みを機にモデル部を新設。
5（土）●奉天で興行中の富田サーカスで、「満州国」軍人らが無料入場を拒否され団員五人を射殺。
6（日）●松方幸次郎が輸入した初のソ連産ガソリンが横浜入港。安売り競争が激化。
7（月）●青森県・十和田湖の姫鱒が欧米で人気、六月以来すでに一〇万尾の注文、と新聞に。
8（火）●日満親善飛行のため羽田を離陸した女性飛行家の朴敬元が、伊豆山中で墜死。
9（水）●第一回関東地方防空大演習始まる。
10（木）●訓練で灯火管制下の東京・小石川療養所で、応急手術中に防護団員が電灯を消せと強要。
11（金）●「信濃毎日新聞」、桐生悠々の「関東防空大演習を嗤ふ」を掲載。
12（土）●大日本麦酒と麒麟麦酒、麦酒共同販売を設立。
13（日）●中国国民党、廬山会議開催。抗日緩和を決定。
14（月）●千葉市でパラチフス蔓延、患者五六一人に。
15（火）●深川八幡宮の神輿、一二六年ぶり永代橋渡御。
16（水）●宇都宮商工会議所の衛生展覧会会場で床が落ち、四十余人が重軽傷。
17（木）●山口・三十四・鴻池銀行の合併決定（三和銀行）。
18（金）●小指九本を添えた「五・一五事件」被告の減刑嘆願書が新潟市から荒木陸相宛に届く。
19（土）●中等学校野球大会準決勝で中京商業対明石中学が延長二五回、中京が一対〇で勝つ。
20（日）●前畑秀子、四〇〇㍍平泳ぎで世界新記録。
21（月）●商工省、出店や出張販売禁止で百貨店を統制。
22（火）●上野動物園にキリンの夫婦が到着。
23（水）●「中央公論」の蒋介石寄稿と「改造」の鳩山文相寄稿が偽作と判明。文相、削除を要求。
24（木）●東京府商店会連盟、渋谷駅横に計画中の東横デパート建設に反対を決議。
25（金）●帝国農会、農家の税負担軽減を高橋蔵相に陳情。蔵相は地方税が過重であることを認める。
26（土）●明治製菓など五社、乳製品共同販売組織設立。
27（日）●干害被害総面積は二四万町歩と農林省報告。
28（月）●静岡の茶業組合に欧米から注文殺到と新聞に。
29（火）●米の業界が日本製缶詰輸入制限案提出と判明。
30（水）●仏の航空会社「エールフランス」が誕生。
31（木）●満州電信電話株式会社創立（9月1日開業）。

# 9~10月

◀「キングコング」封切(9月14日)巨大なゴリラがニューヨークで戦闘機相手に大暴れ。「朝日新聞」は「若干の木戸銭に値する見せ物」と冷たかったが、特撮技術による表現が話題になった。

▼伊勢丹デパート、新宿に進出(9月28日)新宿の中心部に地上7階、地下1階建ての新店舗が開店した。国鉄新宿駅の乗降客急増に着目した2代目の社長・小菅丹治が、神田の昌平橋にあった同店を移転させた。

伊勢丹提供

▼「ラグーザお玉」、イタリアから帰国(10月22日)工部美術学校教師として来日したラグーザと明治15年に渡欧、結婚。女流画家として著名な清原玉さんが、望郷の念から51年ぶりに帰国した。

▲「五・一五事件」、民間側初公判(9月26日)東京地裁で20人の審理が始まった。翌年2月橘孝三郎に無期懲役、大川周明に禁固15年の判決。軍側に比べて重い量刑だった。

朝日新聞社

▶第1回日本ヨット選手権(9月23日)前年7月発足の日本ヨット協会が主催した。東京・品川沖で5メートル級・12フィート級の2種目が行われ、計15艇が出場した。

毎日新聞社

▶人気沸騰、仏で初の国営宝籤(9月2日)中央銀行が印刷した数千万枚は2日間で完売。11月7日の抽選で1等500万フランは南仏の理髪師が獲得した。写真は公開抽選会場。

ROGER-VIOLLET／ユニフォト・プレス

## 昭和8年9月

1(金)●豊田自動織機製作所、自動車部を設置。
●鉱山での女性・年少者の深夜・坑内労働禁止。
●大阪中央放送局、学校放送を開始。

2(土)●東京・豊島区で列車の震動により民家の七輪が転倒、七戸が全半焼。

3(日)●東京で土・日だけ働くデパート店員に「良家の子女」数百人が応募し五三人採用と新聞に。

4(月)●西大阪一帯に高潮。二万七千余戸が浸水。

5(火)●八郎潟で機船転覆。青年団員一九人が溺死。

6(水)●私設無電局資格認定試験を女性が受験(合格し初の女性アマチュア無線技師に)。

7(木)●思想対策委、レコードも取締り対象と決定。

8(金)●特高、共産党シンパとして取り調べ中の作家・林芙美子を、転向したとして釈放、と新聞に。

9(土)●全樺太町村会議員選挙で、選挙権を取得したアイヌ民族から二人が当選、と新聞に。

10(日)●内閣統計局、初の家計調査を発表。

11(月)●高橋蔵相、公債増発しても軍事費優先と言明。

12(火)●養蚕農家は全国で一九二万戸と農林省発表。

13(水)●日本労農弁護士団所属の一七人、共産党員の弁護活動は治安維持法違反として逮捕される。

14(木)●米映画「キングコング」封切。

15(金)●中央線東京—中野間で朝夕に急行電車を運行。

16(土)●近衛第一旅団、東京市内で非常警戒演習実施。

17(日)●東京・荒川でモーターボートレース。日本初のハンディキャップ方式で女性二人も出場。

18(月)●中国東北部に、抗日パルチザン「東北人民革命軍」、成立。軍長は楊靖宇。

19(火)●「五・一五事件」陸軍側被告に禁固四年。

20(水)●一三日から教師復職求め高尾山麓に籠城した成城学園生徒百七十余人、紛争解決し帰京。

21(木)●宮澤賢治、死去。三七歳。

22(金)●池田成彬、三井常務理事に(近代化を指導)。

23(土)●第一回日本ヨット選手権大会、品川で開催。

24(日)●東京・品川でコリントゲーム屋に子ども客を奪われた紙芝居屋がゲーム屋の老店主に暴行。

25(月)●日印会商本会議開催(10月17日、綿布関税率五二%へ引き下げ。9年7月、新条約調印)。

26(火)●福岡県猪鼻炭坑でガス爆発。一五人死亡。

27(水)●奈良・東大寺で二五年に一度の大仏大掃除。

28(木)●東京・新宿に七階建てデパート、伊勢丹が開店。

29(金)●神兵隊事件の安田銕之助、憲兵隊に自首(10月6日、天野辰夫がハルビンで自首)。

30(土)●関脇沖ツ海、萩市でふぐ中毒により急死。



吉本興業提供

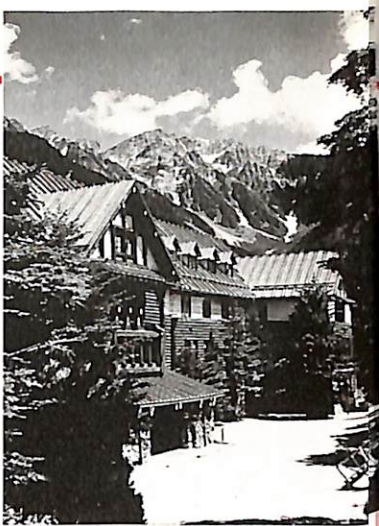
▲人気漫才「早慶戦」(10月)六大学野球の人気をとらえたエンタツ(右)・アチャコの合作。野球中継さながらの描写など、内容・演出ともまったくの新機軸で、現在の漫才への道を開いた。

◀石垣台風で客船転覆(10月20日)沖縄に大きな被害を出した台風29号の影響で、高松発、神戸行きの「屋島丸」が神戸沖で転覆。乗客・乗員130人中69人が死亡、21人が行方不明となった。

毎日新聞社

毎日新聞社

▲大連バラバラ殺人事件、犯人逮捕(10月29日)満鉄衛生研究所員の妻・勝美をめぐる三角関係からの犯行。愛人・中薗秀雄が勝美と共謀、新しい愛人・青柳貢を殺害した。写真は初公判。

帝国ホテル提供

▲上高地に帝国ホテル開業(10月5日)長野県が建設し、帝国ホテルに経営を委託した山岳リゾートホテルで、木造4階建て63室。昭和52年、以前の面影を残して改築された。

共同通信社

◀早慶リンゴ事件(10月22日)東京・神宮球場での早慶戦で、早大応援席から投げられたリンゴを慶大の水原が投げ返し、激怒した早大応援団が慶大側に押しかけた。

▼ローマで集団結婚式(10月30日)ムッソリーニの「生めよ、殖えよ」政策で、2600組が挙式した。農業国から工業国への脱皮をめざすイタリアの、労働力確保が狙いだった。

## 昭和8年10月

1(日)●「文学界」創刊。同人、宇野浩二・川端康成ら。

2(月)●陸海軍の委託研究行う国防科学協議会創立。

3(火)●軍部が唱える「一九三五、三六年の危機」に対処するため五相会議(首・外・陸・海・蔵)開催。

4(水)●放送協会、全国七局結び「仲秋明月の夕」放送。

5(木)●初の山岳リゾート、上高地帝国ホテルが開業。

6(金)●東京・浅草で、マッチ売りの少年に児童虐待防止法初適用。

7(土)●逓信省、設備不完全を理由に夜間飛行を拒絶する操縦士をよそに、夜間飛行開始を協議。

8(日)●秋田県船川港町で大火、町の五分の二を焼失。

9(月)●死者一六人出したメチル焼酎密造犯を逮捕。

10(火)●横須賀市で曲馬団を児童虐待防止法違反で取り調べ、八～一三歳の一一人を保護。

11(水)●若槻礼次郎、ロンドン軍縮条約擁護を声明。

12(木)●衣笠貞之助監督「鯉名の銀平」封切。

13(金)●日本民族衛生学会が優生保護運動の立法化めざし「断種法」草案を起草、と新聞に。

14(土)●ヒトラー、国際連盟と軍縮会議脱退を声明。

15(日)●日本初の女性水上飛行家・松本きく子、愛知県から埼玉県旭村へ郷土訪問飛行。

16(月)●神奈川県特高課で拷問を受けた「死なう団」の江川桜堂、横浜検事局へ告訴状を提出。

17(火)●物理学者・アインシュタイン、米に移住。

18(水)●東京府、全小学校に中学入試指導厳禁を通牒。

19(木)●鉄道旅客数がバス普及で一二%減、と新聞に。

20(金)●台風の高知沖で四一隻遭難、一一人死亡、二〇〇人不明。神戸沖では客船「屋島丸」が沈没。

21(土)●閣議、「平和外交」などの五相会議決定を承認。

22(日)●早慶戦で慶大・水原茂に早大応援団がリンゴを投げつけ両校乱闘(早慶リンゴ事件)。

23(月)●国宝含む蜂須賀侯爵家蔵品二〇五点を競売。

24(火)●ペルシア綿花初輸入。一万二〇〇〇俵入港。

25(水)●司法省、受刑者のラジオ聴取を許可。

26(木)●文部省、スポーツマンの運動能力向上のため「運動医事相談所」を開設。

27(金)●日本商工会議所など九団体が、全日本商権擁護連盟結成(産業組合反対運動が激化)。

28(土)●東京—ベルリン無線電話が完全成功と新聞に。

29(日)●東京の無産診療所が検挙続出で閉鎖と新聞に。

30(月)●山梨・高知県、文部省の指示で全国で初めて教員の思想統制はかる思想問題研究会を設置。

31(火)●軍事支出増加の圧力で、農村匡救事業は翌年度で中止と大蔵省決定。

▼無線電信発明者、伊のマルコーニ夫妻来日(11月16日)藤田嗣治画伯らと横浜港に到着。秩父宮邸を訪問した後、東京・芝の料亭での歓迎会に出席、日本料理を楽しんだ。

▲大日本国防婦人会の関東本部発足(11月23日)東京・青山会館で発会式を挙行。以後、割烹着姿で、兵士の歓送迎などに活躍した。翌年の総本部発足時の会員は54万人。

朝日新聞社

朝日新聞社

▲第1回フープ演技大会(11月)名古屋市の道徳グラウンドで行われた。体重移動で回転するもので、筋力・反射能力・平衡感覚を養う運動具として、この頃からさかんになった。球形で、前後左右に動けるものもあった。

朝日新聞社

▶ゴーストップ事件、解決(11月18日)6月、大阪で信号を無視した兵士を巡査が阻止、格闘となった事件。その後、軍と警察の対立に発展したが、5ヵ月後、曾根崎警察署長(右)が第8連隊長に陳謝し決着した。

毎日新聞社

▼東洋一、芝浦アイススケート場完成(11月25日)東京・芝浦に稲田製氷会が建設。縦60×横25メートル、観客席の収容能力は4000人。フィギュア、スピードのエキシビションが行われた。写真は開場前の氷張り作業。

朝日新聞社

朝日新聞社

◀東京競馬場、開場(11月8日)それまでの目黒競馬場を府下府中町に移転、22万坪、5万人収容で東洋一の規模を誇った。写真は18日に行われた初競馬、東京秋季競馬の初日の様子。馬券売上額は77万円余だった。

## 昭和8年11月

1(水)●『文芸』(改造社)創刊。編集長に上林暁。
●東京の大工職組合がメートル法反対大会開催。

2(木)●日本航空、東京―大阪間夜間郵便飛行を開始。

3(金)●楠好蔵、明治神宮体育大会マラソンで二時間三一分一〇秒の世界最高を記録。

4(土)●東京汽船が三原山爆発見物に遊覧船を増発と新聞広告を出す(10月23日以降、連日火柱)。

5(日)●コミンテルン幹部・片山潜、モスクワで死去。

6(月)●福岡地裁、音曲とは独立に楽譜の著作権認定。

7(火)●神戸市で第一回みなと祭開催(～8日)。

8(水)●東京・府中町に東京競馬場が開場。
●生糸市場暴落。生産価格を三割割りこむ。

9(木)●「五・一五事件」海軍側被告に判決。死刑求刑の古賀清志・三上卓は禁固一五年。
●日本選手による今年度の水泳世界新は、七種目一一回と日本水連。

10(金)●密造メチルで東京の死者二四人と警視庁調べ。

11(土)●大審院、乗客の電車飛び乗り失敗の事故にも運転手の業務上過失罪を認定。

12(日)●独総選挙でナチスが六六〇の全議席を獲得。

13(月)●埼玉挺身隊の鈴木政友会総裁暗殺計画が発覚。

14(火)●新潟県の町村長会が「メートル法は家族制度を破壊する」との意見書決定、と新聞に。

15(水)●大河内傳次郎主演「丹下左膳」封切。

16(木)●横須賀海軍工廠で潜水母艦「大鯨」進水。

17(金)●米、ソ連を承認。

18(土)●日満実業協会、創立。会長に郷誠之助。

19(日)●横浜市児童研究所、ラジオ通じ東京・横浜・川崎・横須賀の小学六年生二万人に知能検査。

20(月)●羽田で初の空中医学実験。上昇中の恐怖など。

21(火)●閣議、ロックフェラー財団からの公衆衛生院建設寄金四〇〇万円の受領を決定。

22(水)●劇団「新劇場」の「源氏物語」上演に禁止命令。

23(木)●福建人民革命政府樹立(26日、紅軍と協定)。

24(金)●海軍省、軍縮研究委員会を設置。

25(土)●東京に東洋一の「芝浦スケートリンク」開場。

26(日)●ボクシングのピストン堀口、世界バンタム級王者、比のヤング・トミーに挑戦し引き分け。

27(月)●震災で焼失した東京・湯島聖堂の孔子廟、復元。

28(火)●共産党中央委員・野呂栄太郎、逮捕。

29(水)●東京地裁の酒巻裁判長、血盟団の井上日召に忌避され辞表提出(12月9日、退職)。

30(木)●満鉄社員会、地方行政・商事部門分離などの満鉄改組案を作成し提出。



証言・あの日この日

河上　秀(48)

12月31日(日)　〈思い出多き一九三三年もいよいよ終りとなった。／ほんとうに今年は一月早々から私にとっては大きな事件の連続だった。／肇さんの下獄、芳子の無事帰宅、どうやら一段落ついたかたち。／いまこの日記を書いていたら、京都の空から／寺々の除夜の鐘がラジオを通して聞こえて来た〉(河上秀『留守日記』)

昭和7年5月、マルクス経済学者で京大教授だった河上肇は、書斎生活を捨てて地下活動に入り、9月に共産党に入党した。が、この年1月の第3次共産党大検挙で逮捕される。河上は実践活動からの引退を宣言、転向を表明したが、懲役5年の実刑判決を受け、下獄する。逮捕から4年6ヵ月後の12年6月に出獄するまで、毎月の面会を欠かさず、思想的に弱気になりがちな夫を励まし続けたのが秀夫人だった。　(山崎行太郎)

毎日新聞社

▲東海道線で貨物列車衝突事故(12月5日)京都府の山崎駅で貨物積みこみ中の貨物列車に、信号誤認の貨物列車が突っこみ13両が折り重なるように脱線・転覆、死傷者2人を出した。

▼ピストン堀口、世界に初挑戦(11月26日)東京・田園調布での世界バンタム級チャンピオン、フィリピンのヤング・トミーとの対戦は引き分け。以後、左右の連打で昭和12年まで、40連勝を記録した。

毎日新聞社

▼東京中央卸売市場完成(12月13日)昭和3年に着工、工費1500万円で築地に建設され、盛大な落成式が行われた。補償金・市場権問題のごたごたから、開場は昭和10年2月になった。

朝日新聞社

朝日新聞社

▲陸軍、新軍刀を発表(12月17日)陸軍は近年の実戦の経験から、従来の洋式サーベルを日本古来の陣太刀式に変更。刀緒の色で階級を区別した。

朝日新聞社

▲樽前山、8年ぶり噴火(12月1日)前年から噴火を警戒されていた、北海道支笏湖に近い活火山が噴火、珍しい溶岩円頂丘の形が変化した。1000メートル上空に噴煙を吹き上げ、降灰はあったが被害はなかった。

## 昭和8年12月

1(金)●徳島県製糸組合、一〇日より三ヵ月全休決定。

2(土)●九年度予算案決定。海軍一五〇〇万円が復活。

3(日)●東京府職業紹介所が女学生八〇〇人に就職相談実施。大半は銀行、百貨店を希望。

4(月)●ブラジルの児童二三〇〇人が署名した親善の手紙が広田外相に届く。

5(火)●米の禁酒法、一四年ぶりに完全撤廃。

6(水)●東京市の教育疑獄で教育局視学を召喚。

7(木)●マルローの『人間の条件』にゴンクール賞。

8(金)●松岡洋右、議員辞職。政党解消運動を声明。

9(土)●陸・海軍省、軍部批判に反論(軍民離間声明)。

10(日)●東京のダンスホール組合、制服学生入場禁止。

11(月)●加納千葉市長、市会疑獄で召喚(20日辞任)。

12(火)●商工省、初の団体生命保険を認可。
●チベットのパンチェン・ラマから一切経五五〇〇巻を入手した河口慧海が帰国。

13(水)●軍医学校、日本人向け義手・義足を開発。

14(木)●廃艦「津軽」払い下げ疑獄で福井順平少将起訴。

15(金)●国宝保存会、高知城など一四件を国宝に指定。

16(土)●米穀統制委員会、新標準公定米価を決定。

17(日)●東京のホルマリン混入酒販売業者に営業停止。

18(月)●労農弁護士団の上村進、左翼と絶縁と声明。

19(火)●近衛秀麿指揮のベルリン放送交響楽団の演奏がベルリンから中継放送される。

20(水)●群馬県草津スキー場に日本初のナイター設備。

21(木)●長谷川時雨ら、演出や照明含め女性だけの劇団創設につき、松竹から承諾を得る。

22(金)●反対根強いメートル法の実施を五年間延期。

23(土)●皇太子(継宮明仁)、誕生。
●共産党中央委員・宮本顕治らによる査問中に小畑達夫が急死(共産党スパイ査問事件)。
●山岡発動機(現・ヤンマー)、世界初の小型四サイクル水冷ディーゼルエンジンを完成。

24(日)●東京・日比谷に日本劇場(日劇)が開場。

25(月)●原田綱嘉、伊豆大島―東京間を競争用モーターボートで走破、新スポーツに道開く。

26(火)●自動車製造(株)(現・日産)、設立。
●潜行中の共産党中央委員・宮本顕治、逮捕。

27(水)●銀座のカフェー、銀座会館で火災、全焼。

28(木)●陸軍が兵士用携帯食料を売り出す、と新聞に。

29(金)●八年度貿易額は前年比三割以上増加と大蔵省。

30(土)●日米通商協議委員会の設置決定。貿易拡大をはかる。

31(日)●山スキー流行で乗鞍など空前の盛況と新聞に。

# 儲楽多市

流行語

## 日本非難の代名詞に

「ダンピング」。昭和八年四月、イギリスが日印通商条約を一方的に破棄、その理由として「日本の綿製品の廉価輸出は、女工を低賃金で酷使しているソーシャル・ダンピングだ」と言明した。以来、「ダンピング」が安い日本製を批判する常套句となった。

「ハア小唄」。この年の最大のヒット曲は、東京・日本橋の芸者、勝太郎の歌う「島の娘」で、レコード売り上げは九〇万枚に達した。この歌は、〽ハアー、島で育てば……と歌い出すところから「ハア小唄」と呼ばれ、同じような「ハア小唄」が次々に登場した。

「一網打尽」。一月一八日、共産党員やシンパ一五〇四人の大検挙が、新聞で一斉に報じられた。この時、各紙が「一網打尽」という見出しを使ったところから、たちまち流行語になった。

CM100年

The BRAZIL COFFEE

爽！薫！醍醐味!!

ブラジル珈琲

FINEST AROMA DELICIOUS TASTE ★

新聞広告「ブラジル珈琲」（ブラジル珈琲宣伝所、三井物産）

▲この頃からコーヒーの輸入量がふえ始め、日本は"コーヒー時代"を迎えた。

▲「東京パック」8月号掲載の加藤悦郎画「ここにも焚書」。ヒトラーの焚書になぞらえて、時の鳩山一郎文相の学問・研究の自由侵害を皮肉った。

文化

## 童謡のメッカ「音羽ゆりかご会」誕生

「音羽ゆりかご会」は戦中から戦後にかけて、川田正子・孝子・美智子の三姉妹を中心に童謡の一大黄金時代を築いた。作曲家の海沼実が同会を設立したのは昭和八年四月である。東京・文京区の護国寺にある幼稚園の一室を借りて発足した。以後の活動はめざましく「からすの赤ちゃん」「お猿のかごや」、戦後には「みかんの花咲く丘」「里の秋」などを次々に世に送った。特に昭和二二年七月放送開始のNHKのラジオドラマ「鐘の鳴る丘」の主題歌「とんがり帽子」は全国の子どもたちに愛唱された。（長田暁二『童謡歌手から見た日本童謡史』）

▶ベティ・ブープは一九三〇年代アメリカのアニメーションのスター。日本では昭和八年に人気が出た。写真はブープ人形。

TOYS CLUB

社会

## 汲み取りの大転換 金はもらうから払うものへ

昭和八年は、し尿の汲み取りの歴史にとって一大革新の年だった。東京市が人糞尿を市で処理することとし、各家庭から一荷（二樽）につき二五銭ずつ徴収することを決めたのだ。日本では室町時代以来、五〇〇年以上にわたって人糞尿は農家の人々が金を払って買い上げ、農作物のこやしに使うという形が定着していた。江戸時代、長屋の大家はその金で正月の餅をつくのが慣例になっていたほどだから、まさに一八〇度の大転換であった（楠本正康『こやしと便所の生活史』）

データ

## 与謝野晶子は九文 有名人の足の大きさ

東京の足袋屋さんが有名人の足の大きさを調査した。それによると（一〇文は二四センチ）——。

入江たか子（女優）＝一〇文半。川島芳子（「東洋のマタ・ハリ」と言われた男装の麗人）、夏川静江（女優）＝九文半。柳原白蓮、与謝野晶子（いずれも歌人）＝九文。男性では清浦奎吾（元首相）、高橋是清（元蔵相）がともに一〇文だった。（「健康の友」三月号）

▲4月15日、東京の靖国神社で、殉国会の主催による「典型的日本女子大祭典」が行われた。護国の神霊として紫式部、乃木大将夫人らが合祀された。



三面記事

## 不況の中のヘンな流行

刑務所の囚人の間では昔から、こよりで小さな草履を作ることが行われていたが、最近、この草履が世間でもてはやされている。囚人が草履を作るのは、草履は足と縁があるものだから、これを作ると早く出所できるという迷信に基づくもので、それも小さければ小さいほどよいとされ、器用な人は小指の爪ほどの草履を作る。この草履が世間で人気があるのは、これを持っていると運が開けると言われているため。刑務所まで出向いて「囚人のものをぜひ譲って」と直談判におよぶ人もあるという。（「犯罪公論」一一月号）

▶一一月一日、改造社から文芸誌「文芸」が創刊された。特に海外文学の紹介に力を入れた編集だった。

文藝 創刊號 特別寄稿 ゴーリキイ 四刷 改造社

海外

## 離婚訴訟の理由は夫が愛しすぎるから

米・デトロイト市のミラー夫人が当地の裁判所に「夫があまりに愛しすぎる」という、いっぷう変わった理由で離婚訴訟を提起した。その事情を聞くと、夫は彼女を愛しているからといって、結婚以来一〇年以上、職場へ毎日花を送ってくる。最初は好意的だった上司や同僚も反発するようになり、ついには「度がすぎる」としてクビになった。これでは自分の人生はメチャメチャになるというのだ。（「実話雑誌」九月号）

文化

## スターの証明は食い気から

昭和八年頃には"一〇銭芝居"と呼ばれる小劇団が五〇近くあった。木戸銭（入場料）が一〇銭の芝居だからこう呼ぶのだが、その世界では座員一人が一日一〇銭で暮らすような貧乏劇団という意味で用いられた。事実、朝はごはんに味噌汁、昼は野菜、夜はまた味噌汁で、魚など何ヵ月も食べないこともあった。

ところが"一〇銭芝居"には結構うまい役者がいたし、上達するものもいる。人気が出てくるとその役者目がけて、タバコが一〇箱、二〇箱と飛んでくるし、キャラメルが雨あられと降ってきた。もうひとつ、ラムネの瓶というのもあったが、これは投げるわけにはいかないから、舞台の一番手前にズラーッと並べた。人気が高くなればひいきもついて、お座敷もかかる。その時、役者はここぞとばかり贅沢なものを食べた。だから"一〇銭芝居"の役者をひいきにすると、メシ代がびっくりするくらいかかると言われた。（「人間探究」昭和二六年七月号）

# はやり歌

福田俊二提供

▲ドイツからハーゲンベック大曲馬団がやって来たのを記念して作られた曲。松平晃が歌って大ヒットした。

**サーカスの唄** 作詞 西条八十 作曲 古賀政男

旅のつばくろ　淋しかないか<br>
おれもさみしい　サーカスぐらし<br>
とんぼがえりで　今年もくれて<br>
知らぬ他国の　花を見た

昨日市場で　ちょいと見た娘<br>
色は色白　すんなり腰よ<br>
鞭の振りよで　獅子さえなびくに<br>
可愛いあの娘は　うす情

あの娘住む町　恋しい町を<br>
遠くはなれて　テントで暮らしゃ<br>
月が冴えます　心も冴える<br>
馬の寝息で　ねむられぬ

朝は朝霧　夕は夜霧<br>
泣いちゃいけない　クラリオネット<br>
流れながれる　浮藻の花は<br>
明日も咲きましょ　あの町で

**東京音頭**（丸の内音頭替歌） 作詞 西条八十 作曲 中山晋平

ハアー　踊り踊るなら　チョイト<br>
東京音頭　ヨイヨイ<br>
花の都の　花の都の真中で<br>
※サテ　ヤートナソレ　ヨイヨイヨイ<br>
ヤートナソレ　ヨイヨイヨイ

ハアー　花は上野よ　チョイト<br>
柳は銀座　ヨイヨイ<br>
月は隅田の　月は隅田の屋形船<br>
（※印繰り返し）

ハアー　幼なじみの　チョイト<br>
観音様は　ヨイヨイ<br>
屋根の月さえ　屋根の月さえ懐かしや<br>
（※印繰り返し）

◀今ではプロ野球球団の応援歌になるほど人気を保ち続けているヒット曲。歌は小唄勝太郎と三島一声。前年に出された元歌より替歌の方が大ヒットした。

JASRAC（出）許諾第9711180-701

共同通信社

▲女医・竹内茂代の学位論文が6月、東大教授会を通過、初の女性医博が誕生。写真は祝賀会。

夫婦

## 男の義侠心？悪妻から亭主略奪

東京・目白署へ桂木敬蔵の妻・とみ（四二）が「夫の同僚四人と兄が夫を連れ去った」と届け出た。同署で調べたところ、敬蔵は無類のお人よしで同僚の信頼も厚いが、とみはごはんは亭主に炊かせて、酒は飲むは、夜遊びで深夜、垣根を乗り越えて帰宅するは……。見かねた経営者が離縁させようとしたが、とみが応じないため、亭主を略奪し隠したものとわかった。（「東京朝日新聞」八月二八日）

この年の初もの

## ジャズ喫茶「ちぐさ」横浜にオープン

●**事業部制**　松下幸之助が独立採算の事業部制を採用。

●**水槽つき消防自動車**　初期消火の決め手として東京・高輪消防署が導入。国産だった。

●**ファッションショー**　東京朝日新聞社の講堂で開催。「ジャパン・アドバタイザー」という英字新聞の女性記者が開いたもの。

●**ミステリー列車**　六月、省線（現・JR）が客に行き先を教えないミステリー列車を走らせた。

高島屋提供

▶三月二〇日から、東京・日本橋の高島屋屋上で京都祇園祭展覧会が開かれ、山鉾のひとつ月鉾が展示され、人気を集めた。

# 42対1で可決された「対日勧告案」——
# その瞬間、松岡代表は「さようなら」と演説した
# 日本、国際連盟脱退! 世界の〝孤児〟へ

▲2月24日、国際連盟総会で、日本軍の満州撤退を求める「対日勧告案」が42対1で可決された後、最後の演説をする日本全権代表・松岡洋右。 毎日新聞社

◀松岡洋右全権代表(写真中央)、長岡春一(国際連盟大使)、佐藤尚武(ベルギー大使)らの国際連盟総会派遣団。
毎日新聞社

昭和八年二月二四日、国際連盟に対する〝訣別演説〟の後、日本の松岡全権代表は「失敗した……」と何度もつぶやいた。列国の妥協案を呑むか、それとも「満州国」に日本の運命を賭けるか——苦悩した代表団の心情とは関係なく、いっさいの妥協を許さず連盟脱退への道を選んだ日本政府。それは、日本が退路をみずから断つことを意味していた。

## 連盟への〝訣別演説〟 松岡が「さようなら」

この日のジュネーブは、夜来の雪がやみ、冬には珍しい暖かい日になった。四四ヵ国の代表者が集まった国際連盟本部、パレ・ウィルソンの「ガラスの間」は、窓にかけられた真紅の緞帳に陽射しをさえぎられていたこともあって、外とは裏腹に張りつめた冷気が支配していた。

昭和八年二月二四日——

国際連盟の臨時総会では、「満州事変」に端を発する日中紛争に対して、「満州国の否認」を含めた厳しい対日勧告案が、採択されようとしていた。

午後一時二五分、ベルギーのポール・イーマンス議長がアルファベット順に国名を呼び、勧告案の賛否を各国に問い始める。最初に指名された南アフリカ連邦の代表者が大きく、「イエス(賛成)」と答えた。

その後、ひたすら繰り返されていく「イエス」の返答。会場がどよめいたのは、二四番目の日本全権代表・松岡洋右(五二)が大きく「ノー」と叫んだ時だった。

採決の結果は賛成四二、反対一(日本)、棄権一(シャム=タイ)。勧告案が大差で可決されると、議長の「日本代表が発言を求めています」という声に、満座の視線が憮然とした表情の松岡に集まった。

「日本は勧告案の受諾を断固拒否する。世界平和のため、連盟に協力していこうとする努力は、もはやここに尽きた」

右手をふりかざして連盟への〝訣別演説〟を行った松岡は、日本語の「さようなら」で締めくくり、代表団にも退場をうながしてその場を去ったのである。

第一次大戦後の大正八年、二七ヵ国が調印したヴェルサイユ条約によって平和機構である国際連盟が創立されてから、常任理事国五ヵ国のひとつとして英、仏などとともに連盟を支えてきた日本が、〝世界の孤児〟となる決定的瞬間だった。

一人の新聞記者が会議場の出口で追いつくと、松岡は「失敗した……、失敗した……」と苦渋の表情でつぶやいていた。

## 調査団に先駆けて「満州国」を承認に

〝満蒙(中国東北部と内モンゴル)は日本の生命線〟として、その領有化をねらった関東軍は昭和六年九月、「満州事変」を引き起こした。満鉄線の諸都市で爆弾事件を偽装し、治安保全と称して満州全域に進撃したのである。これに対し、中国の国民政府は九月二一日、日本を連盟に提訴した。

世界恐慌による深刻な経済不況などの内政に気を取られていた英、仏といった列強は、日本の不拡大表明もあって当初、積極的な収拾策に乗り出そうとしなかったが、その姿勢も関東軍が次々と占領地を拡大していくと次第に変わっていく。

「日本を支配しているのは、政府なのか、それとも出先の軍司令官なのか」——。

各国の大使館から抗議が集中し、孤立していく日本。連盟理事会が、現地調査団の派遣を決定したのは昭和六年一二月一〇日だった。イギリスの枢密顧問官・リットン卿を団長に、仏・独・伊・米の植民地行政のベテラン約二〇人からなる調査団に日本、上海、満州などで調査にあたらせ、作成する報告書を見て、解決に乗り出すことにしたのである。

日本や上海を経て、翌七年四月二一日に奉天(現・瀋陽)入りした「リットン調査団」は、清朝の溥儀を執政に担ぎだして建国していた「満州国」でも、溥儀や関東軍首脳らと会見を重ねている。

こうして、「満州国」の実態を約七ヵ月かけて調査した一行は、一〇月二日、一四八ページにわたる報告書を発表した。

「『満州事変』の責任はあくまで日本側にある。そこで、中国の主権のもと『満州国』に自治を与えるが、満州での日本の既得権も認める。ただし、日本軍は中国全域から撤退すべきである」(大要)。

毎日新聞社

▲ジュネーブから帰国途中の「浅間丸」船上での代表団一行。松岡はジュネーブで生まれて初めてオールバックに調髪した。

外から見たNIPPON

# トロツキーが鋭く見抜いた"破局"に突進する日本

――佐伯 修

「日本の支配階級はたしかに目がくらんでいる。かれらは領土の占領、威嚇、露骨な武力といった外交政策によって、未曾有の国内的困難から抜けだす道を探し求めている。あらゆることがかれらの思うとおりになった。国際条約は破られた。独立国家の創建という見せかけのもとに、広大な領土が併合された。国際連盟は、だれにも、なんの役にもたたない議事録を山とつみ上げる。アメリカは用心深く沈黙をまもっている。ソ連は譲歩する」（山西英一訳）

一九二九年、スターリンに国外追放されたロシアの革命家、レオン・トロツキー（一八七九～一九四〇）はこの年の七月、亡命先のトルコ、プリンキポ島で、二年前の「満州事変」以後の日本の動きを分析した「破局に向かって突進する日本」を書いた。

この中で、トロツキーは、満州（中国東北部）における軍事的勝利はおさめても、「日本軍の天下無敵」は、帝政ロシア軍の場合と同様「信心深いひとつの神話」にすぎないと述べている。「対露戦争以来、日本が世界的科学技術の水準でその軍備を維持するにたるだけの経済的、文化的発展をとげたことは争う余地がない」としながらも、彼は、日本の工業がいまだ軽工業中心なこと、国民一人当たりの所得がわずか一七五円にすぎないこと、肺病などの伝染病による死亡率が高いことなどをあげ、先進諸国との大規模な戦争を戦い抜くことは、この国にはまだ無理だろうと予見した。

「日本ブルジョアジーは中世農奴制の結び目を断ち切ってしまわないうちに、侵略的な外交政策をとるようになった。ここに主要な危険がある。軍国主義の建物が社会的火山の上に建てられたのである」

▲ソ連「赤軍」を創った天才軍略家。

トロツキーのこの分析は、今日では偽文書とする説が強い「田中義一メモ」に依拠しながらも、近代国家システムを徹底させずに、精神主義のみで戦争を始めれば、日本が自滅する危険性を的確に見抜いていた。

ところが、彼が危険視する、動乱を演出した軍人である橋本欣五郎や石原莞爾は、そんな彼に注目していた。特に「満州事変」の首謀者・石原は、トロツキーを高く評価、「満州国」にみずから企画した「建国大学」の、ガンジーから宮本常一にいたる教員招聘リストには、トロツキーの名もあったという。しかし、同大学創立の翌々年、さまよえる革命家は、メキシコで、脳天にピッケルを打ちこまれて暗殺される。

日本の既得権に配慮した宥和案だったが、日本は受け入れようとはしなかった。国内ではすでに、六月一四日の衆議院本会議で「政府は『満州国』を承認すべし」との決議を満場一致で可決。さらに政府も、八月二五日に内田康哉外務大臣が「国を焦土にしても主張は一歩も譲らない」という"焦土外交"の方針を打ち出し、九月一五日には「満州国」承認を強行していた。日本と連盟が決裂する直前に日本代表となり、脱退への先導役をはたしたのが冒頭の松岡だったのである。

「彼自身は、日本も妥協して連盟内に残るべきだと考えていました。ところが、軍部の力を背景に譲歩をしない内田外相にはばまれ、脱退演説をぶつ羽目になってしまった。『失敗した』という彼のつぶやきは、中央を説得できなかった自分と政府に対する悔しさでしょう」

と筑波大学名誉教授の臼井勝美氏は解説する。

一方で、和解の努力を続けてきた連盟が、日本に妥協の余地がないと見るや、八年二月二四日に強硬な対日勧告案を成立させたのにも理由があった。ナチスドイツの暗雲が垂れこめ始めていた欧州で、「『満州国』の運命を"明日はわが身"と警戒したベルギーなどの小国が『日本に連盟規約を遵守させて連盟の威信を世界に見せろ』と強く要求し、盟主である英・仏の日本への態度を硬化させた」（臼井氏）のである。

しかし、連盟脱退は国民を漠然とした不安におとしいれ、孤立感からくる急進的な愛国心を呼び起こすことになる。四月二七日に帰国した松岡は熱狂的な群衆に迎えられ、新聞には「連盟脱退という政府の選択は正しい」といった投書があふれた。少年雑誌までもが少年たちの愛国心を試す献金を呼びかけたのである。

「諸君のような小学生たちが、全国には九八六万人いる。だから一人一銭でも集まれば九二式装甲車が三台できるのです」

こうして連盟加盟国を敵にまわし、みずから退路を断った日本は、太平洋戦争への道をひた走ることになった。

▲天長節にあたる4月29日、日比谷公園で開かれた連盟脱退詔書奉戴式。約2万人が参加した。



# 往きて還らぬ

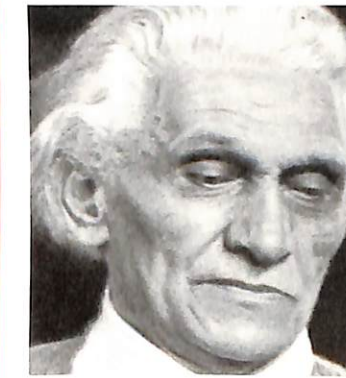
▲10月30日　平福百穂（55）
画家。鋭い自然描写と装飾的な画風の作品を残した。代表作「予譲」など。歌人としても優れ、歌集に『寒竹』。

▲9月21日　宮澤賢治（37）
詩人、童話作家。詩「雨ニモマケズ」や、童話『銀河鉄道の夜』などの名作を残した。過労により急死。

▲4月21日　長岡外史（75）
元陸軍中将。日露戦争時の大本営参謀次長。講和条件のため樺太占領を主張、大正5年予備役。航空界の発達に功績。

▶11月5日　片山潜（73）
社会運動家。明治三四年、社会民主党を結成。大正末期には日本共産党の成立に尽力。ソ連のモスクワで病死。

▲6月2日　遠藤波津子（72）
美容師。近代美容術の草分けで、明治38年東京・銀座に美容室を開店。大日本婦人美容協会会長もつとめた。

▲1月23日　堺利彦（62）
社会主義運動家。明治32年「万朝報」社に入社。日露開戦に際して36年非戦論を展開。後、無産運動で活躍。

▲12月4日　ステファン・ゲオルゲ（65）
近代で最も影響力を持ったと言われるドイツの詩人。「戦争」（1917年）などの時事的な詩は政治的にも利用された。

▲10月15日　新渡戸稲造（70）
教育者。京大・東大教授を歴任し、大正7年東京女子大初代総長。昭和に入って、悪化する日米関係の改善に寄与。

▲9月5日　巌谷小波（63）
児童文学者、創作童話の創始者。明治24年『こがね丸』を刊行、雑誌「少年世界」を主宰。叢書『日本昔噺』など。

▲1月31日　J・ゴールズワージ（65）
英の小説家、劇作家。1906年『物欲の人』で認められ、1932年ノーベル文学賞受賞。戯曲に『銀の箱』など。

▲12月8日　山本権兵衛（81）
元海軍大将、政治家。薩摩閥の領袖として知られる。海軍の元老として大正2～3年、12年の2度、首相となった。

▶9月10日　古賀春江（38）
画家。シュールレアリスム風の作品で知られ、大正一一年、前衛グループ「アクション」結成。代表作「海」など。

毎日新聞社

▲3月18日　吉野作造（55）
政治学者。大正デモクラシーの理論家で、民本主義を提唱。後、明治文化研究につとめ、『明治文化全集』を編集。

# ミニ事典

## 1933年のキーワード

### 長野県教員赤化事件

長野県特高課が二月四日から四月上旬まで行った、共産党員とそのシンパの一斉検挙。六百余人の逮捕者のうち教員が六十余校一三八人にもおよんだため、長野県のプロレタリア教育運動は根こそぎにされ、特にその中心になっていた諏訪郡の永明小学校では一三人が検挙され、校長以下三二人の教職員全員が辞職に追いこまれる徹底弾圧を受けた。

### 熱河作戦

関東軍が「満州国」の安定支配と華北、内モンゴル進出への道を確保するために計画した侵略戦争。二月二三日、反満抗日勢力の撃滅を掲げて熱河省に侵入。張学良らが指揮する中国軍は二十数万の大軍だったが、三月一〇日頃までに全域を制圧した。しかし、中国軍の反撃を理由に関東軍は進撃を続け、五月には万里の長城を越えて河北省にも進攻、中国と塘沽停戦協定を締結し、「満州事変」に一応の決着をつけた。

毎日新聞社

▲万里の長城に達し、万歳を唱える関東軍の将兵。北平（北京）までわずか100キロほどの距離だった。

### ニューディール政策

失業者が全米で一五〇〇万人を超えた大恐慌に対してルーズベルト大統領が実行した対応策。企業競争による自動回復力を放棄し、政府が経済への全面介入を行った。三月九日に特別議会を開き、テネシー渓谷開発公社法などの緊急措置法を制定、政府資金を活用し、銀行や各産業の救済・復興をめざした。

### 米穀統制法

米の最低・最高価格を公定し、それを維持するために、政府が最低価格で米を買い入れ、最高価格で売り渡すこと、購入量について政府は制限できないことなどを定めた法律。三月二九日公布。昭和五年以来の農村の疲弊に対する救済策として打ち出された。当初は農家の売り急ぎ、政府買い上げ量の増大をもたらすなど混乱を招いたが、長期的には米価の暴騰・暴落を防いだ。

### 「サクラ読本」

この年四月一日から尋常小学校一年生が使用した国語教科書。巻頭が「サイタ　サイタ　サクラ　ガ　サイタ」で始まるので「サクラ読本」と言われる。従来墨一色だった教科書が明るい薄茶色の表紙、四色刷りの本文になり、内容も一新した。特に国威発揚色が強くなったことは最大の特色で、「サクラ」の後は、「ヘイタイ　ススメ」「ヒノマルノハタ　バンザイ」などが続く。

▲第4期国定教科書「小学国語読本　巻一」（サクラ読本）の冒頭の2ページ。

### 娼妓取締規則改正

娼妓が外出する際の所轄警察署への届け出を不要とし、また雇い主が外出を妨害してはならないことを定めた省令。娼妓が勝手に廓の外に出ることを禁じていた明治三三年公布の取締規則を改正。内務省により五月二三日公布、六月一一日施行。「籠の鳥」と言われていた娼妓に一定の自由が与えられたが、そのほとんどが金で買われた身であることに変わりはなかった。

### 高松地裁差別裁判事件

被差別部落に住む兄弟が「娘を誘拐した」と訴えられた件に関し、高松地裁が「特殊部落民でありながら身分を隠し甘言によって誘惑した」とする検事の論告を支持、実刑判決を下した事件。全国水平社本部は委員長・松本治一郎を総指揮に請願隊を編成、各地で宣伝活動を行いながら兄弟の即時釈放を求めた。五ヵ月後、司法省は差別判決を認め、兄弟の仮釈放、検事の左遷、関係判事らの人事異動を行った。

### 転向

権力の強制などにより、固持していた主義・思想を捨てること。この年六月七日になされた日本共産党中央委員長・佐野学、中央委員・鍋山貞親の「転向声明」がその典型。両人は翌日「共同被告同志に告ぐる書」を発表、皇室を民族統一の中心とする社会主義を掲げ、「満州事変」以降の日本の侵略戦争を肯定する論を展開した。二人の転向は党員・シンパに影響を与え、弾圧の強化とともに大量転向を引き起こした。

### 「関東防空大演習を嗤（わら）ふ」

「信濃毎日新聞」主筆の桐生悠々が八月一一日付同紙「評論欄」に書いた、関東防空演習に対する批判記事。八月九日から三日間、東京をはじめ一府四県で某国爆撃機が主要都市を空襲するとの想定で、軍・官・民をあげた防空演習が実施された。これを「敵機を迎撃する想定の演習は敗北を前提としていて滑稽」と指摘したもの。信州郷軍同志会（会員八万人）が同紙の不買運動を展開したため、桐生は退社に追いこまれた。

信濃毎日新聞社

▲桐生悠々（本名・政次）。この時60歳だった。

### 財閥の転向

九月二二日に三井合名常務理事に就任した池田成彬が着手した経営政策の転換。理事長・団琢磨が血盟団団員に暗殺された事件が契機となった。「財閥の事業独占は不可であり、小資本の経営しうる事業からはできるだけ手を引いて、大資本でなければできない国家的事業に主力を向ける」とし、医療・農村更生事業などへの助成、財閥直系会社からの三井一族の辞職推進など、財閥の経営改革に着手した。

### 児童虐待防止法

一四歳未満の児童に対する酷使・虐待を禁止した法律。四月一日公布、一〇月一日施行。昭和五年以降の恐慌で農村家庭の娘の身売り、児童への体罰や重労働などが目立ったため、内務省社会局が法制化を急いでいた。これにより保護者の児童虐待や、街頭で遊芸・物売りをさせること、酒席で酌婦をさせることなどが禁じられた。戦前の数少ない児童福祉立法のひとつで、戦後、児童福祉法に統合された。

週刊YEAR BOOK／日録20世紀 1933

CONTENTS




●編集
講談社総合編纂局
アート・ディレクター　山口至剛
表紙デザイン　山口至剛デザイン室（茂村巨利）＋渡邉裕一
本文レイアウト　デザインオフィス八起き
編集協力　有エービーシープレス　株カマル社　株コミュニケーション　ハウス・ケースリー　シド・プロ　有マックス　有マライカ
飯田守　小原伸夫　鍵和田良輔　小松邦宏　佐野長成　張替政展
藤森雅弘　結城順　吉田忠正

●写真協力
大橋俊夫　乙咩雅一　北原照久　熊切圭介　但馬　憲　福田俊
古川清　宮松金次郎　安田元久
朝日新聞社　岩波書店　共同通信社　CORBIS　BETTMANN
NN　木挽社　信濃毎日新聞社　東奥日報社　PPS　毎日新聞社
ユニフォト・プレス　ROGER VIOLLET　WWP
伊勢丹　聖路加国際病院　高島屋　帝国ホテル　日本コロムビア
ビクターエンタテインメント　マツダ映画社　吉本興業
アメリカ国立公文書館　大宅壮一文庫　釜石市立郷土資料室　カール・ハーゲンベック動物園　川喜多記念映画文化財団　日本共産党
日本近代文学館　bpk

週刊YEAR BOOK 日録20世紀 1933
●皇太子明仁親王ご誕生！
1月20日号
第2巻第2号 通巻45号
平成10年1月20日発行（毎週火曜日発行）
編集人 近藤達士 発行人 丸本進一 発行所 株式会社 講談社
郵便番号112-8001 東京都文京区音羽2-12-21
（編集）03-3944-1295 （販売）03-5395-3604
定価560円 本体533円



雑誌 23703-1/20
Ⓛ-2001/1/1
T1123703010561



印刷 凸版印刷株式会社 製本 本村製本株式会社